

## 学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画等の策定について

「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」（以下「推進計画」という。）等を以下のとおり策定したので報告します。

### 1 背景

部活動は、少子化の進展や、活動を担う教員に大きな負担があることから、従来と同様の体制で活動を継続することが困難な状況にある。こうした状況を踏まえ、国は、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定し、都は「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」を策定した。

このことを受けて、区は、部活動の地域クラブ活動への移行等に向けた計画策定に取り組む必要がある。

### 2 推進計画の概要

#### （1）部活動改革の目的

生徒が、生涯にわたりスポーツ等に親しむことのできる基礎を培うことや、多様な考え方をもつ生徒間等での交流を通じて自身の主体性や社会性等を育むことができるように、部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行を推進し、学校施設等を活用した持続可能なスポーツ・文化芸術活動の場を確保する。

#### （2）計画の位置付け

令和6年度から令和8年度までの3年間とし、杉並区教育ビジョン2022推進計画に定める「部活動の充実」の実現に向けて、計画期間における取組の展望を明らかにする。

#### （3）計画期間における取組と今後の方向性

部活動指導員の配置拡充など、部活動支援の充実を図るとともに、地域クラブ活動への移行を見据え、教員ではなく地域が主体となり実施する拠点校方式による合同部活動を実施する。

また、社会教育として、地域の特性に合わせた様々な活動が展開され、生徒が、自らの志向や体力等の状況に適したスポーツ・文化芸術活動を選択できるように、多様な地域クラブ活動の確保に向けた取組を合わせて進める。

### 3 その他

推進計画の策定に合わせて、平成31年に策定した「運動部活動の在り方に関する指針(ガイドライン)」を、部活動の地域クラブ活動への移行等に関する内容を反映させた「学校部活動の在り方に関する方針(ガイドライン)(以下「ガイドライン」という。)」として改定した。

### 4 推進計画及びガイドライン

別紙1、別紙2のとおり

### 5 今後の主なスケジュール(予定)

令和6年6月 区立中学校等への周知

学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画

令和6年（2024年）5月

杉並区教育委員会



# 目次

1章 計画策定の背景及び部活動改革の目的.....	1
2章 計画目標 .....	7
3章 組織体制の整備 .....	8
4章 取組内容（令和6～8年度（2024～2026年度）） ...	9
5章 地域クラブ活動の拡充に向けて.....	12

参考資料

# 1章 計画策定の背景及び部活動改革の目的

## 1-1 部活動を取りまく状況及び部活動改革の背景

中学校の部活動は、生徒のスポーツや文化芸術等に親しむ機会を確保するとともに、他学年生徒等との異年齢の人間関係の構築や生徒自身の自己肯定感、責任感、連帯感の涵養等に資するものとして、大きな役割を担ってきました。

一方、部活動は、全国的に少子化が進展し、一部の集団競技では、チームを編成することができず試合に出場することが困難な活動があることや休日の指導・大会引率などの活動を担う教員に大きな負担があることから、これまでと同様の体制で活動を継続することが困難な状況にあります。

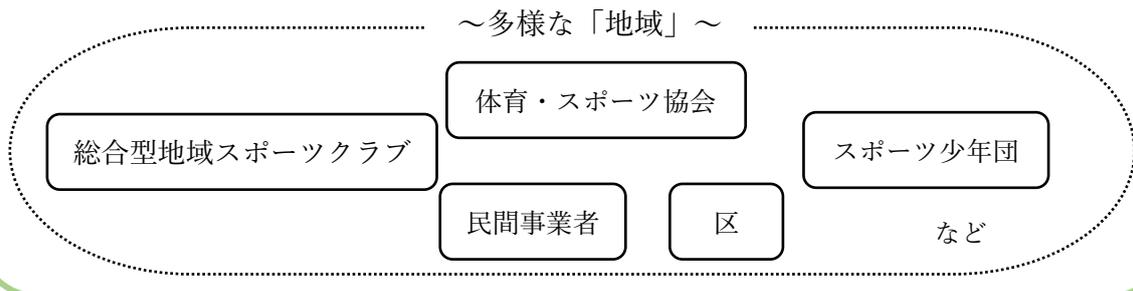
こうした状況を踏まえ、令和4年（2022年）12月に、スポーツ庁・文化庁は、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」（以下、「国のガイドライン」という）を策定し、部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行について、令和5年度（2023年度）から令和7年度（2025年度）までの3年間を改革推進期間と位置付けて、部活動の適正な運営、効率的・効果的な活動の在り方及び新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応を示しました。

国のガイドラインの策定を受けて、東京都は、都内の公立中学校等の休日における部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行が推進されるよう、「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」を作成しました。区市町村は、本計画に基づき、令和6年度（2024年度）の早期に地域連携・地域移行に向けた方針及び計画等を策定するとともに、令和7年度（2025年度）末までに地域連携等に向けた取組に着手し、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ環境の充実を図ることとされました。

部活動の地域クラブ活動への移行（地域移行）、地域連携について

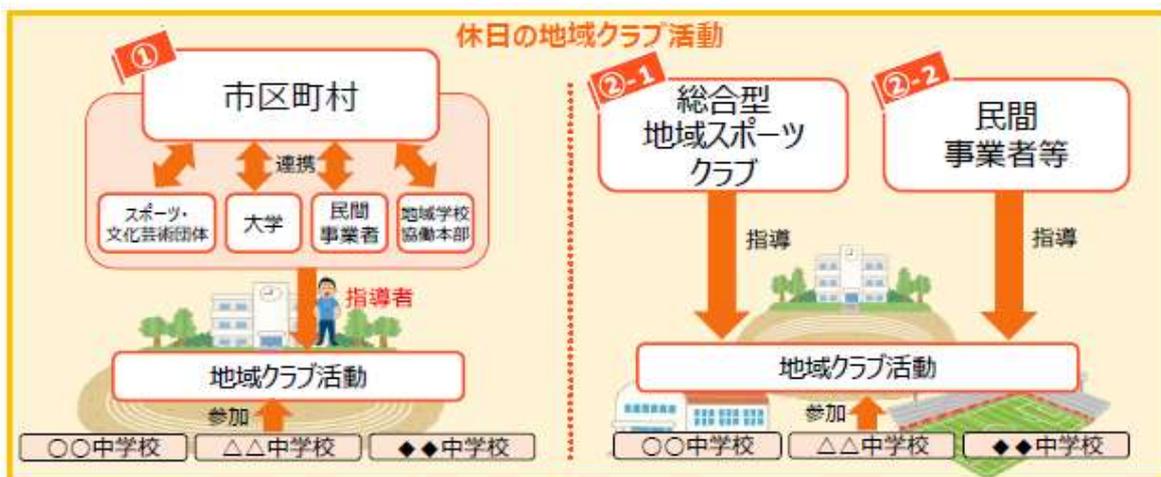
### ○部活動の改革における「地域」とは

国のガイドラインでは、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、体育・スポーツ協会、競技団体、民間事業者などの多様な団体等を地域クラブ活動の運営団体・実施主体として想定しています。また、区市町村が運営団体となることも想定しており、学校以外の人や団体などを広く「地域」として捉えています。



○「地域クラブ活動への移行（地域移行）」とは

現行の中学校で行われている部活動が、学校以外の人や団体など「地域」により行われるようになることを指します。

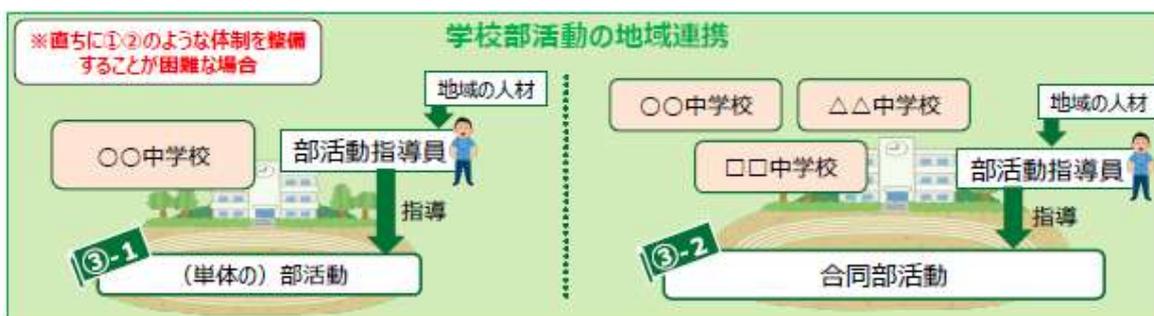


スポーツ庁、文化庁作成資料「学校部活動の地域連携、地域クラブ活動への移行の全体像（イメージ）」抜粋

○「地域連携」とは

現行の中学校で行われている部活動に対して、部活動指導員※等の指導者を配置するなど地域人材の支援を受け部活動を実施することをいいます。

必要に応じて、複数校の生徒が一つの拠点に集い活動を実施する方式である「拠点校方式による合同部活動」を導入し、活動を実施します。



スポーツ庁、文化庁作成資料「学校部活動の地域連携、地域クラブ活動への移行の全体像（イメージ）」抜粋

※ 部活動指導員（学校教育法施行規則（昭和22年省令第11号）第78条の2）

区では、会計年度任用職員として、学校長の管理下で部活動の指導や大会引率等を行っています。

## 1-2 本区の部活動の現状及び課題

### (1) 部活動の現状

表1 区立中学校23校の部員数等 (令和4年度(2022年度))

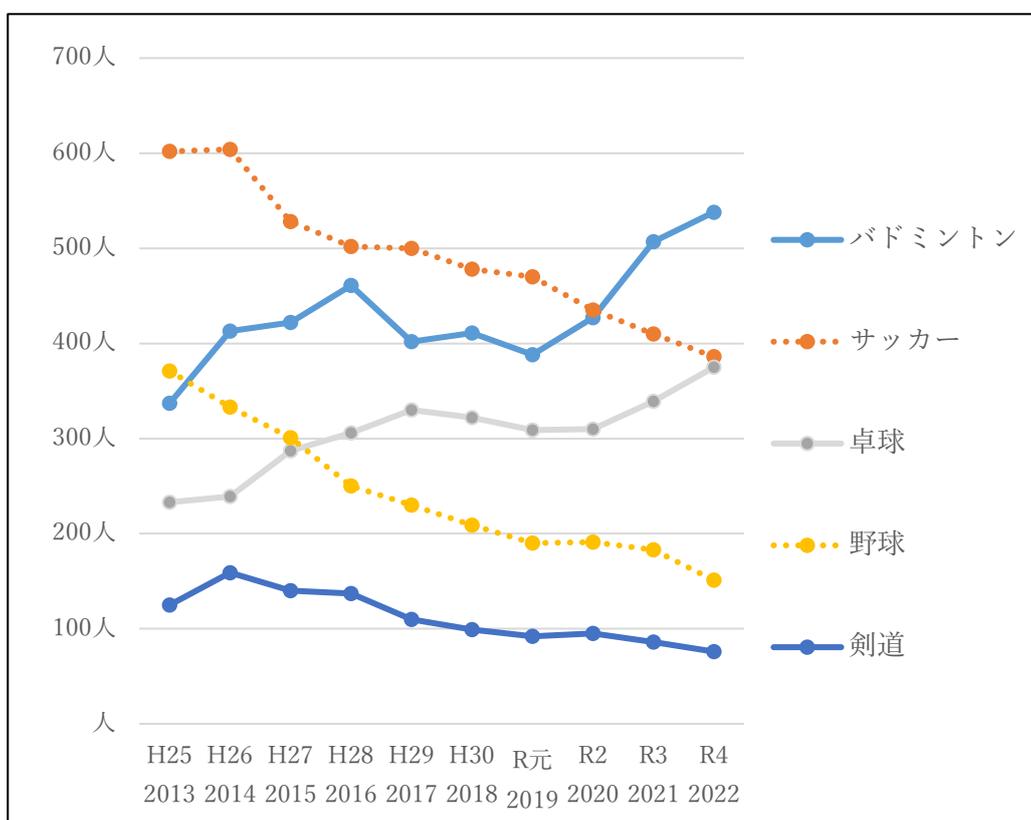
	部活動全体	(内)運動部	(内)文化部
部員数	6,094人	3,914人	2,180人
加入率	90.3%	58.0%	32.3%
設置数	280部活	166部活	114部活
休日に活動している部活動	118部活	105部活	13部活
部活動指導員の配置数	8部活	8部活	0部活

### (2) 部活動の課題

#### 課題1 部員数の減少による部活動の衰退化

運動部活動については、部員数上位(令和4年度(2022年度))の種目の推移に着目すると、グラフ1のとおり、個人戦のあるバドミントン部や卓球部の部員数が増加傾向にあることがわかります。一方、集団競技であるサッカー部や野球部等の部員数が減少傾向にあることもわかります。

グラフ1 部員数上位10種目(令和4年度(2022年度))のうち、10年前の部員数と比べ増減率が30%を超える種目の推移



また、サッカー部や野球部においては、表2のとおり、既に一部の学校において、単独校では大会に出場することができないなど、活動が制限される状況にあります。

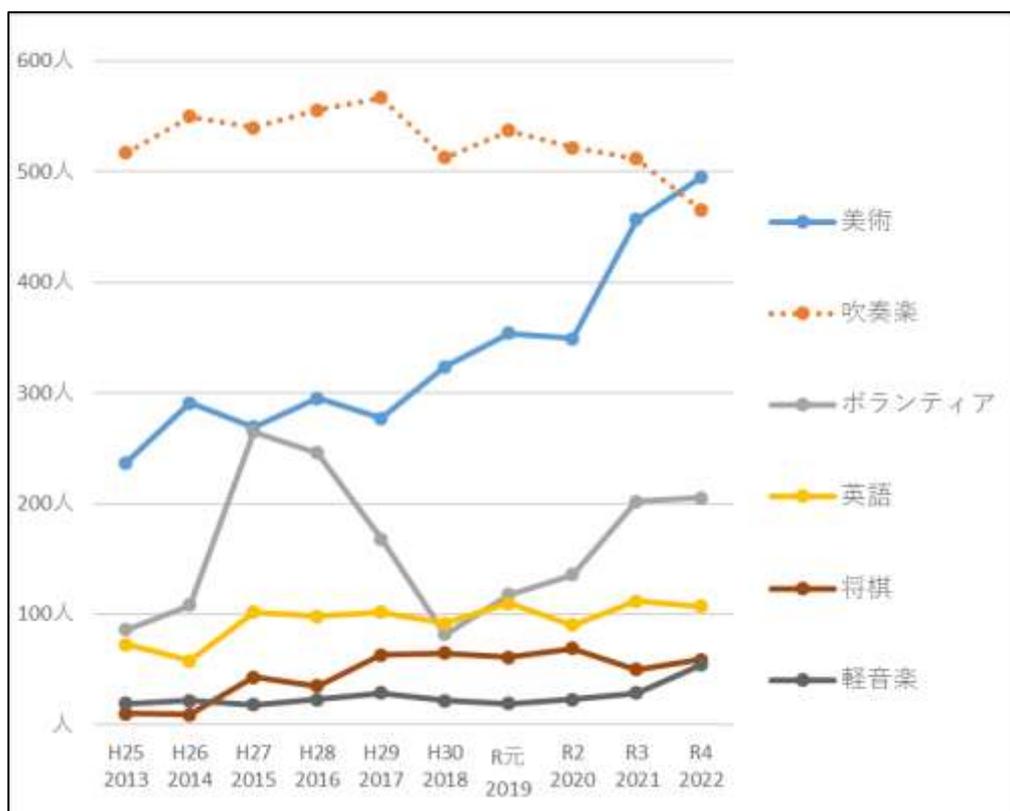
表2 サッカー部、野球部の実施状況（令和4年度（2022年度））

	部員数が競技実施可能 人数に満たない中学校	部活動がない中学校
サッカー部	3校	2校
野球部	3校	11校

（区立中学校数23校）

文化部活動については、部員数上位（令和4年度（2022年度））の種目の推移に着目すると、グラフ2のとおり、吹奏楽部が減少傾向にあり、その他の種目が増加傾向にあることがわかります。

グラフ2 部員数上位10種目（令和4年度（2022年度））のうち、10年前の部員数と比べ減少または30%以上増加した部活動の推移



こうしたことから、部員数の減少により、既に学校単位での部活動の運営が困難な状況が生じていることがわかります。

現在、区立学校の生徒数は概ね横ばいで推移していますが、今後、少子化が進展した場合、生徒数・部員数が減少し、活動自体が失われる恐れがあります。

## **課題2** 部活動を担う教員の負担

### **①長時間勤務の実態**

令和4年度(2022年度)の区立中学校教員の1人当たりの月平均時間外勤務は、約39時間、年度を通じて一度でも月の時間外勤務が80時間※を超えた教員の割合は17%であり、多くの教員が長時間の勤務状態にあります。

※月の時間外勤務が80時間を超えると健康障害のリスクが高まるため、80時間は過労死ラインと呼ばれています。

なお、令和5年(2023年)4月に文部科学省が実施した「教員勤務実態調査(令和4年度)の集計(速報値)」によると、中学校教諭の土日の在校等時間※2時間18分のうち、1時間29分が「部活動・クラブ活動」を事由とした在校等時間であり、多くの教員が部活動を理由に土日の勤務に従事しています。

※在校している時間に、校外において生徒の引率等の職務に従事している時間等を加え、休憩時間等を除いた時間

### **②教員の意識**

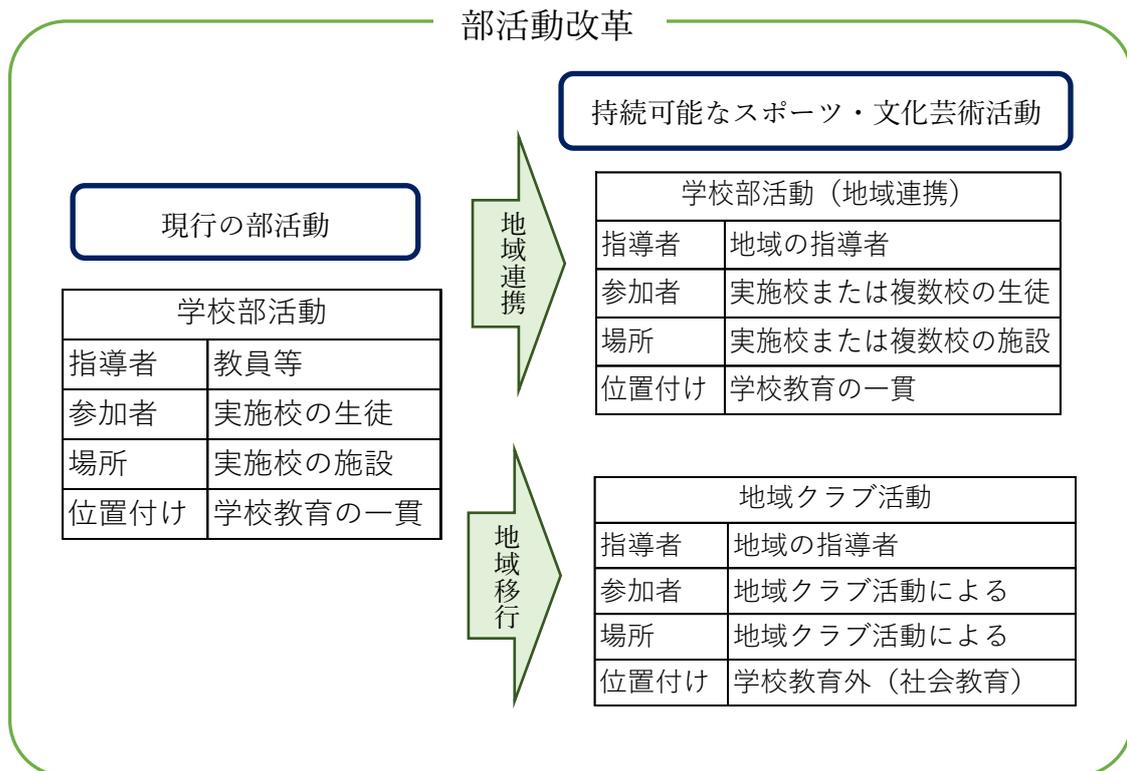
東京都教育庁指導部が、公立中学校等626校を対象に実施した「未来へつなぐ部活動改革 アンケート 集計結果(令和5年(2023年))」によると、教員が現在指導している部活動について困っていることとして、47.6%が「家族との時間や自分の趣味・研究に費やす時間がない」、40.3%が「休みがない・少ない」と回答をしています。

また、部活動の指導や運営により支障が生じている業務として、74%が「教材研究」、50.6%が「生徒指導(補習や面談など)」を挙げています。

このように、多くの教員に部活動の指導や運営を事由とした長時間勤務の実態があり、教員が主体となり指導を行う部活動を継続することが困難な状況にあります。

### 1-3 部活動改革の目的

生徒が、生涯にわたりスポーツ等に親しむことのできる基礎を培うことや、多様な考え方をもつ生徒間等での交流を通じて自身の主体性や社会性等を育むことができるように、部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行を推進し、学校施設等を活用した持続可能なスポーツ・文化芸術活動の場を確保します。



## 2章 計画目標

### 2-1 計画の位置付け

本計画は、杉並区実行計画（第2次）等と整合性を図るため、令和6年度（2024年度）から令和8年度（2026年度）までの3年間を計画期間とし、実行計画（第2次）事業及び杉並区教育ビジョン2022推進計画に定める「部活動の充実」の実現に向けて、計画期間における取組の展望を明らかにします。

なお、今後の部活動を取り巻く状況の変化等を踏まえて、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。

### 2-2 計画目標（令和6～8年度（2024～2026年度））

計画期間において以下の取組を実施することを目標とします。

#### ①教員主体ではなく地域が主体となり指導等を担う新たな部活動の実施

生徒が、生涯にわたってスポーツに親しむことのできる基礎を培うことができる持続可能な活動環境を整備するため、一部の運動部活動において、地域クラブ活動への移行を視野に入れた取組として、地域（民間事業者）が主体となり、技術指導、大会引率等を行う部活動を実施する。

また、部活動の地域クラブ活動への移行に向けた過渡期においては、喫緊の課題である教員の負担を速やかに解消するため、部活動指導員や外部指導者の配置拡充等を行い、地域連携の取組を推進する。

#### ②拠点校方式による合同部活動の実施

生徒が、一定規模の活動の中で、多様な考え方をもつ生徒間等での交流を図り、自身の主体性や社会性を育むことができるように、学校単位での部活動の運営が困難な状況にある一部の運動部活動において、複数校の生徒が1つの拠点に集い、活動を実施する拠点校方式による合同部活動を実施する。

## 3章 組織体制の整備

### 3-1 検討組織

区の学校教育部門だけではなく、生涯学習、スポーツ振興部門を構成員として、令和5年度（2023年度）に新たに設置した「杉並区における中学校部活動の在り方検討委員会（以下「検討委員会」という。）〈参考資料1〉」において、令和6年度（2024年度）以降も引き続き、部活動の課題や問題点を検証するとともに、部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行について、検討を進めます。

### 3-2 検討方法

検討委員会では、「運動部活動に関するアンケート まとめ（令和5年（2023年）杉並区立中学校 PTA 協議会）〈参考資料2〉」、「未来へ つなぐ 部活動改革 アンケート 集計結果（令和5年（2023年） 東京都教育庁指導部）〈参考資料3〉」の他、部活動の保護者会における意見などを参考に、表3のような生徒が望む活動等を確認するとともに、令和5年度（2023年度）に新たに設置した「杉並区における中学校部活動の在り方に関する懇談会〈参考資料4〉」の杉並区体育協会、区立小・中学校のPTA協議会が推薦する者等からの意見も踏まえ、部活動の在り方に関する議論を深めていきます。

表3 生徒が中学校の運動部活動に求めていること（回答）

回答項目	割合
①身体を動かして楽しむ環境	75%
②スポーツの技術向上	59%
③人間関係を作る環境（集団生活）	56%
④勉強以外の何かに取り組める環境	43%
⑤自分の目標を設定して、それに向けて自身で工夫、努力する環境	36%
⑥他校・他者と競争し、目標を達成する環境	28%

運動部活動に関するアンケート（令和5年（2023年）2月 杉並区立中学校 PTA 協議会）設問1「中学校の運動部活動に求めていることを3つ教えてください」の回答結果から、割合を算出

## 4章 取組内容（令和6～8年度（2024～2026年度））

### 4-1 取組内容

#### （1）地域連携の取組

部活動指導員、外部指導員等を配置し、教員の負担を軽減しつつ、生徒にとって魅力ある部活動となるように部活動支援の充実を図ります。

##### ① 部活動指導員の配置拡充

部活動指導員は、区の会計年度任用職員として、校長の管理下において、現在、運動部活動の指導、大会や練習試合の引率など部活動の運営・管理等の職務に従事しています。

表4のとおり、計画期間においては、配置数を拡充します。

表4 部活動指導員の配置数（計画数）

（参考）令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度）	令和7年度 （2025年度）	令和8年度 （2026年度）
2人拡充 累計8人	4人拡充 （累計12人）	4人拡充 （累計16人）	4人拡充 （累計20人）

##### ② 外部指導員の配置拡充

外部指導員は、地域の人が学校の要請に応じて、ボランティアとして、運動部活動・文化部活動の指導補助を行っています。

表5のとおり、計画期間においては、配置数を拡充します。

表5 外部指導員の配置数（計画数）

（参考）令和5年度 （2023年度）	令和6年度 （2024年度）	令和7年度 （2025年度）	令和8年度 （2026年度）
配置数 360回/校	配置数 410回/校	配置数 410回/校	配置数 410回/校

##### ③ 部活動活性化事業によるコーチの配置

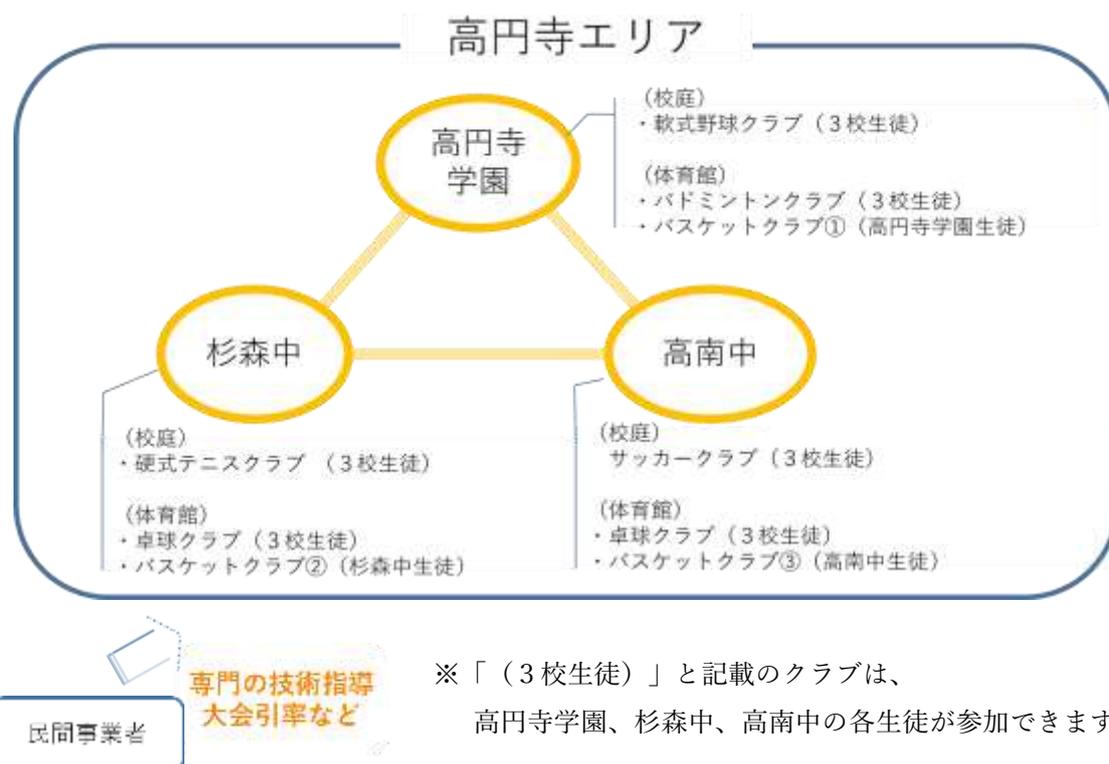
民間事業者等に委託した専門性のあるコーチが、部活動の技術指導を行う部活動活性化事業を、令和5年度（2023年度）に引き続き継続実施します。

## (2) 「学校部活動の地域クラブ活動への移行」を視野に入れた取組

本取組は、令和4、5年度（2022、2023年度）に高円寺学園中学部においてモデル事業として実施した「中学校の新たな部活動支援業務」を継承して実施するもので、令和6年度（2024年度）も引き続き、高円寺学園中学部の全ての運動部活動の技術指導、大会の引率、審判の実施等を地域（民間事業者）に委託することで、教員の負担軽減を図るとともに、生徒が、スポーツに親しみ、スポーツ技術の向上に資する環境の確保を図ります。

令和7、8年度（2025、2026年度）は、複数校の生徒が1つの拠点に集い活動を実施する拠点校方式による合同部活動として、高円寺学園中学部、杉森中学校、高南中学校の3校で実施し、一定程度の活動規模と人間関係を作る環境を確保し、多様な考え方をもつ生徒間等での交流による、生徒自身の主体性や社会性を育むことができる環境整備を進めます。

【令和7、8年度（2025、2026年度）の実施イメージ】



また、一つの種目だけではなく複数種目の活動を求める生徒もいることから、希望する生徒が、曜日ごとに別の種目を選択できるなど、多様なスポーツに親しむことができる制度設計も行います。

なお、地域クラブ活動への移行を見据え、将来的に学校ではなく地域が主体となることができるよう、スポーツクラブと称して、活動を実施します。

### (3) 文化部活動について

文化部活動では、部員数が減少傾向にある中、コンクールの出場には一定規模の部員数を確保する必要がある吹奏楽部について、優先的に地域クラブ活動への移行の在り方に関する検討を進める必要があります。しかし、吹奏楽部については、楽器ごとに指導者が異なることや使用する楽器の管理方法など、整理すべき多くの課題があります。

現在、区内在住の中学生等に対して、NPO 法人との協働提案事業として、プロの指導者のもとで楽器演奏の基礎を学び、一曲一曲を作り上げる合奏体験の場を提供する「吹奏楽ワークショップ」を実施しています。同ワークショップの成果等を踏まえ、検討委員会において、文化部活動の受け皿となり得る地域クラブ活動の在り方について検討するとともに、現行の部活動に対しては、外部指導員を活用するなど、地域連携の取組を推進し、生徒にとって魅力ある文化芸術活動の維持に努めます。



## 5章 地域クラブ活動の拡充に向けて

国のガイドラインでは、休日や長期休暇中などに開催される体験教室のような活動、レクリエーション的な活動、シーズン制のような複数の種目や分野を経験できる活動なども地域クラブ活動として想定しており、区は、前4章の取組と並行して、こうした様々なスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の確保に向けた検討を進める必要があります。

また、学校教育の一貫である部活動ではなく、社会教育として、地域の特性に合わせた様々な活動が展開され、生徒が、自らの志向や体力等の状況に適したスポーツ・文化芸術活動を選ぶことができるように、地域との連携を模索し、多様な地域クラブ活動の確保に向けた取組を進めていきます。



## 参考資料

○参考資料 1

杉並区における中学校部活動の在り方検討委員会設置要綱

○参考資料 2

運動部活動に関するアンケート まとめ

(令和 5 年 (2023 年) 杉並区立中学校 PTA 協議会)

○参考資料 3

未来へ つなぐ 部活動改革 アンケート 集計結果

(令和 5 年 (2023 年) 東京都教育委員会)

○参考資料 4

杉並区における中学校部活動の在り方に関する懇談会運営要綱

杉並区における中学校部活動の在り方検討委員会設置要綱

令和 5 年 4 月 25 日

杉教第1062号

改正 令和 6 年 3 月 29 日杉教第11825号

(設置)

第 1 条 生徒にとって魅力ある持続可能なスポーツ及び文化芸術活動の確保に向けて、杉並区における中学校の部活動の在り方について検討することを目的として、杉並区における中学校部活動の在り方検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 部活動の地域との連携及び地域への移行等の部活動の在り方に関すること。
- (2) 部活動における支援全般に関すること。
- (3) 部活動の活動状況の検証・評価に関すること。

(構成)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 教育委員会事務局学校整備・支援担当部長
- (2) 教育委員会事務局教育政策担当部長
- (3) 区民生活部スポーツ振興課長
- (4) 教育委員会事務局学校支援課長
- (5) 教育委員会事務局生涯学習推進課長
- (6) 杉並区立済美教育センター所長
- (7) 杉並区立済美教育センター統括指導主事
- (8) 杉並区立中学校長
- (9) 教育委員会事務局学校支援課指導主事
- (10) 杉並区立済美教育センター指導主事
- (11) その他委員長が必要と認めた者

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、教育委員会事務局学校整備・支援担当部長をもって充てる。
- 3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第 5 条 委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴き、又は説明を求めることができる。

(庶務)

第 6 条 委員会の庶務は、教育委員会事務局学校支援課において処理する。

(委任)

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育委員会事務局学校整備・支援担当部長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和 5 年 5 月 1 日から施行する。
- 2 杉並区における中学校部活動検討委員会設置要綱（令和 2 年 3 月 31 日杉教第11863号）は、廃止する。

附 則（令和 6 年 3 月 29 日杉教第11825号）

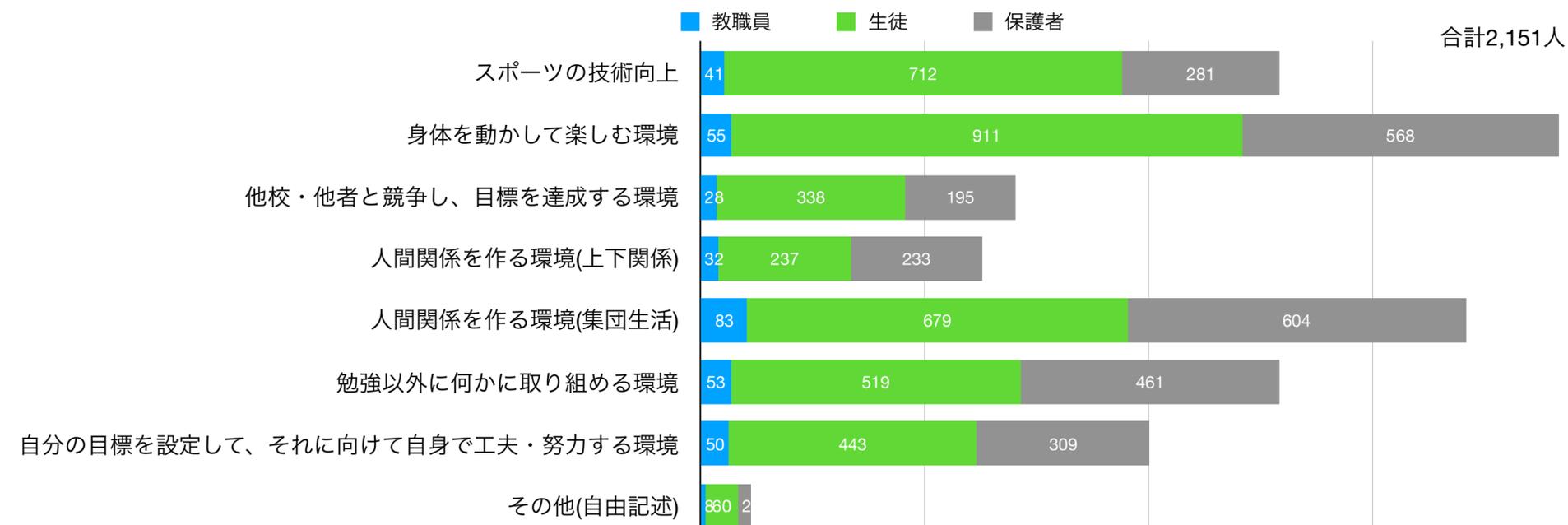
この要綱は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

# 運動部活動に関するアンケートまとめ

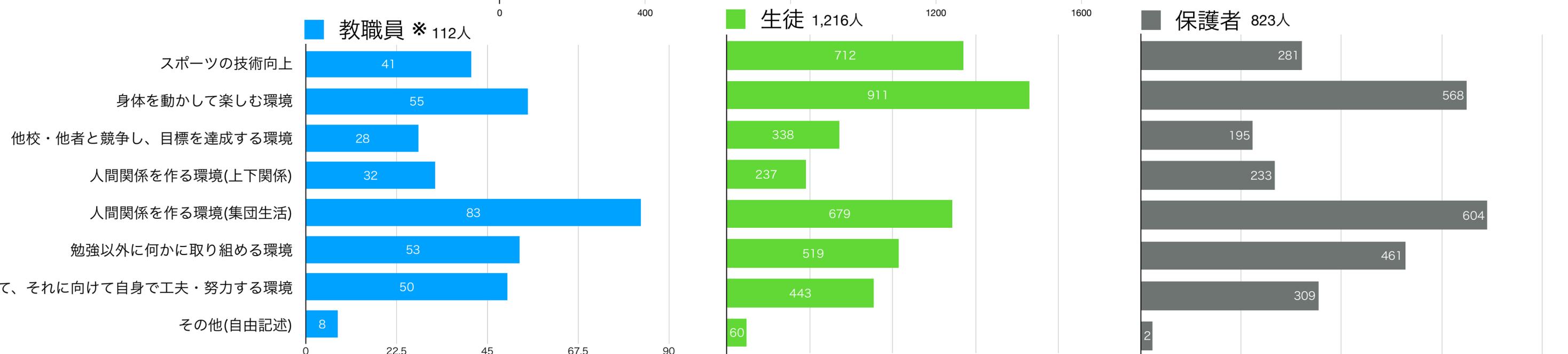
1. 中学校の運動部活動に求めていること
2. 環境として重要視していること
3. 中学校の運動部活動に求めていることはどういう形で実現するのが望ましいか
4. 運動部活動に取り組む教職員自身が求めていること
5. 自由記述
  - 5-1. 中学校の運動部活動に求めていること
  - 5-2. 環境として重要視していること
  - 5-3. 中学校の運動部活動に求めていることはどういう形で実現するのが望ましいか
  - 5-4. 運動部活動に取り組む教職員自身が求めていること

# 1. 中学校の運動部活動に求めていること

- ・教職員・生徒・保護者毎の上位3項目を比較してみると、3者共通で「体を動かして楽しむ環境」「人間関係を作る環境(集団生活)」を求めていること、教職員・保護者は「勉強以外に何かに取り組める環境」、生徒は「スポーツの技術向上」を求めていることが分かる。
- ・一方、教職員・生徒・保護者毎の下位3項目を比較してみると、3者共通で「人間関係を作る環境(上下関係)」「他校・他者と競争し、目標を達成する環境」は低くなっており、教職員・保護者は「スポーツの技術向上」、生徒は「自分の目標を設定して、それに向けて自身で工夫・努力する環境」が低いことが分かる。



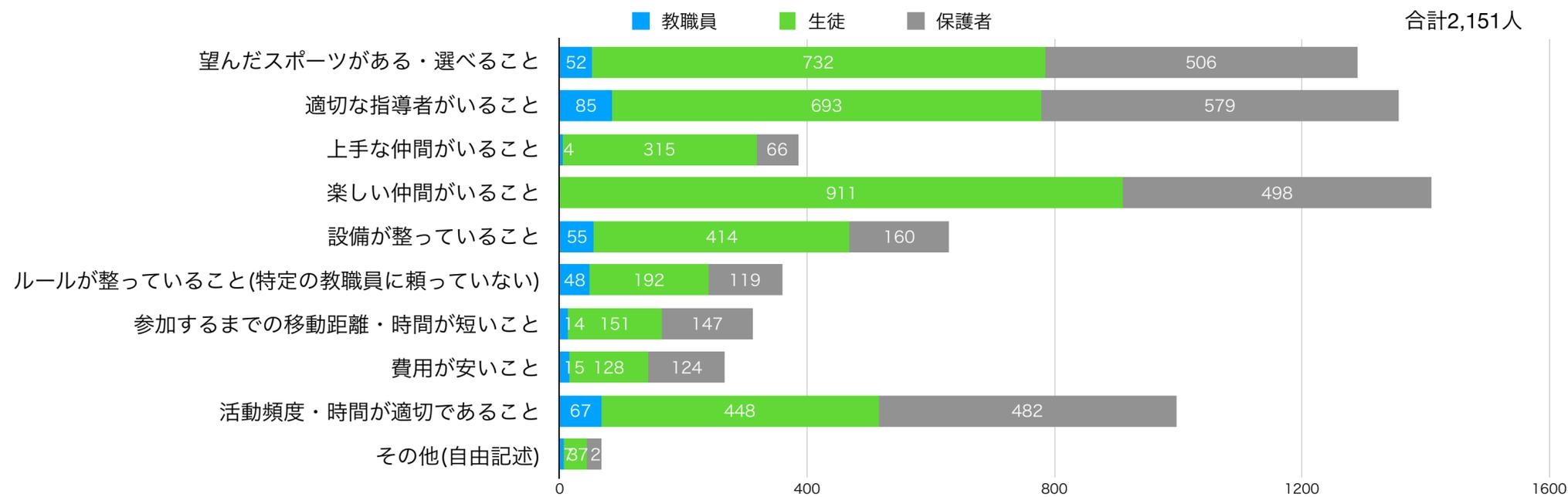
中学校の運動部活動に求めていることを3つ教えてください



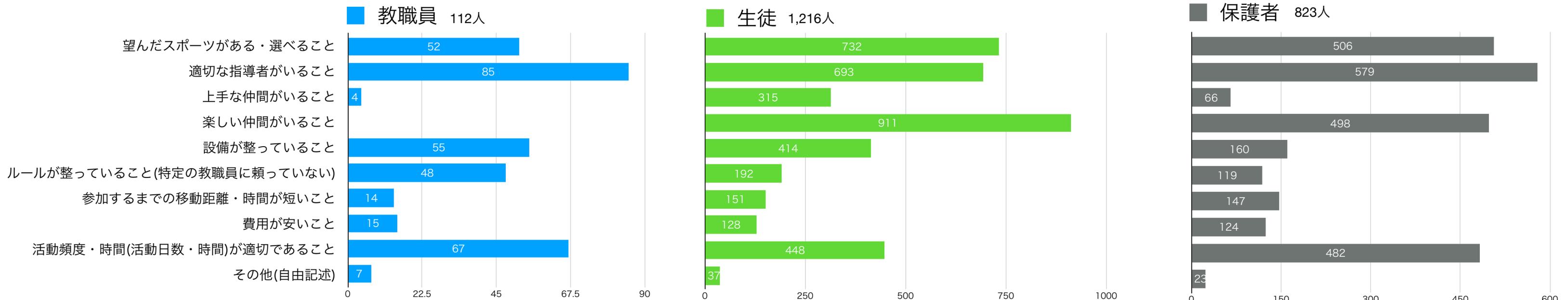
※. 質問は生徒に対して運動部活動への参加で提供したいこと

# 2. 環境として重要視していること

- ・教職員・生徒・保護者毎の上位3項目を比較してみると、3者共通で「適切な指導者がいること」を求めており、教職員は「活動頻度・時間が適切であること」「設備が整っていること」、生徒・保護者は「望んだスポーツがある・選べること」「楽しい仲間がいること」を求めていることが分かる。
- ・一方、教職員・生徒・保護者毎の下位3項目を比較してみると、3者共通で「費用が安いこと」は低くなっており、教職員・保護者は「上手な仲間がいること」、教職員・生徒は「参加するまでの移動距離・時間が短いこと」、生徒・保護者は「ルールが整っていること」が低いことが分かる。



環境として重要視していることを3つ教えてください



# 3. 中学校の運動部活動に求めていることはどういう形で実現するのが望ましいか

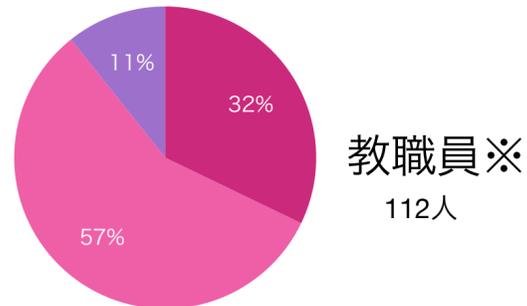
- ・回答理由から教職員・生徒・保護者の多くの方がやむを得ず選択している状況になっていることが分かるため、現時点の集計結果が有効な情報だとは考えにくい。(回答例を以下に示す)
- ・今後は『1. 運動部活動に求めていること』及び『2. 環境として重要視していること』の回答及び自由記述の問題提起を踏まえ、実現方法の議論を教職員・生徒・保護者の複数の視点で行うことが重要だと考える。



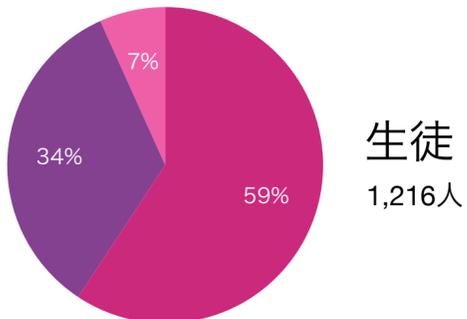
中学校の運動部活動に求めていることは、どのような形が望ましいかを教えてください

なぜそう思うのか教えてください

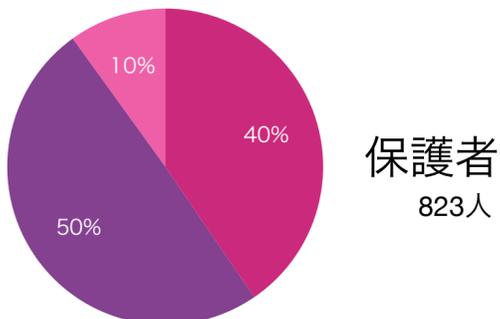
・地域に新規で委託できる資金があるとは思えないから。教員の勤務状況を改善するならば、職員人数の見直しなど、検討すべき。  
 ・現状では地域クラブに移行するといっても実現可能と思われる形が出てきていない



・成り立つのであれば、学校内で成り立ってほしい  
 ・先生の負担が大きい、先生の都合がつかないのであれば、地域クラブに移行したほうがいい。部員がどちらにしたいか投票できるようにしてもらえるとありがたい  
 ・様々なスポーツをやるのもいいが、クラブを作るより、兼部のシステムを整えて欲しい。  
 ・地域クラブだと金がかかるから  
 ・今の時点で地域クラブの全容が見えないため。  
 ・なぜいきなり大人の都合でこんな話が出てくるのかわからない。  
 ・中途半端に移行したら中途半端な部活動になってしまうという不安がある。ずっと寄り添ってほしい。



・部活の繋がりがなくなって、先生たちと生徒たちの人間関係はしっかり育まれるのか心配です。外部に全面委託することで学校が荒れてしまうのではないかと心配です。  
 ・部活動にも学校生活の延長としての活動の場だからこそ意味がある部分もあるかと思う。ただ、先生方の負担を考えると何とも言いえない。  
 ・地域クラブは現実的ではない



・学校の部活動では部員数確保が難しく他校と合同になる部活動もあるのが現状となっている。それであれば地域クラブとして学校を超えて活動したほうがよいと考えました。ただ地域クラブに丸投げするのではなく、指導者と活動場所の確保をどうしていくのかも検討した上で、移行していくことが必要と考えます。  
 ・学校毎に活動することが、むずかしいならば、いくつかの学校をまとめて活動することがあっても良いと思います。クラブチームに入り、毎週遠くまで通うのは難しいけれど、地域の中学校で活動できるならばありがたいです。  
 ・【地域クラブ】の具体的な内容がまだ分からず、中学生の子どもたちが通える環境や物理的な条件（距離など）を満たすにはどのような形態がよりよいのか考える余地があると思い、1つだけの選択はしませんでした。  
 ・部活動の顧問を引き受けることが精神的にも肉体的にも負担になる先生がいらっしゃるなら、その部分は地域クラブや外部指導という形で補っていくべき。ただ、完全に外部に依存するのではなく、どの先生も授業以外で生徒と触れ合う環境を作ることは大切だと思う  
 ・コーチから専門的な指導を受けられることは嬉しいですが、先生との繋がりが薄れたりしないかという懸念があるため、両方という回答を致しました。

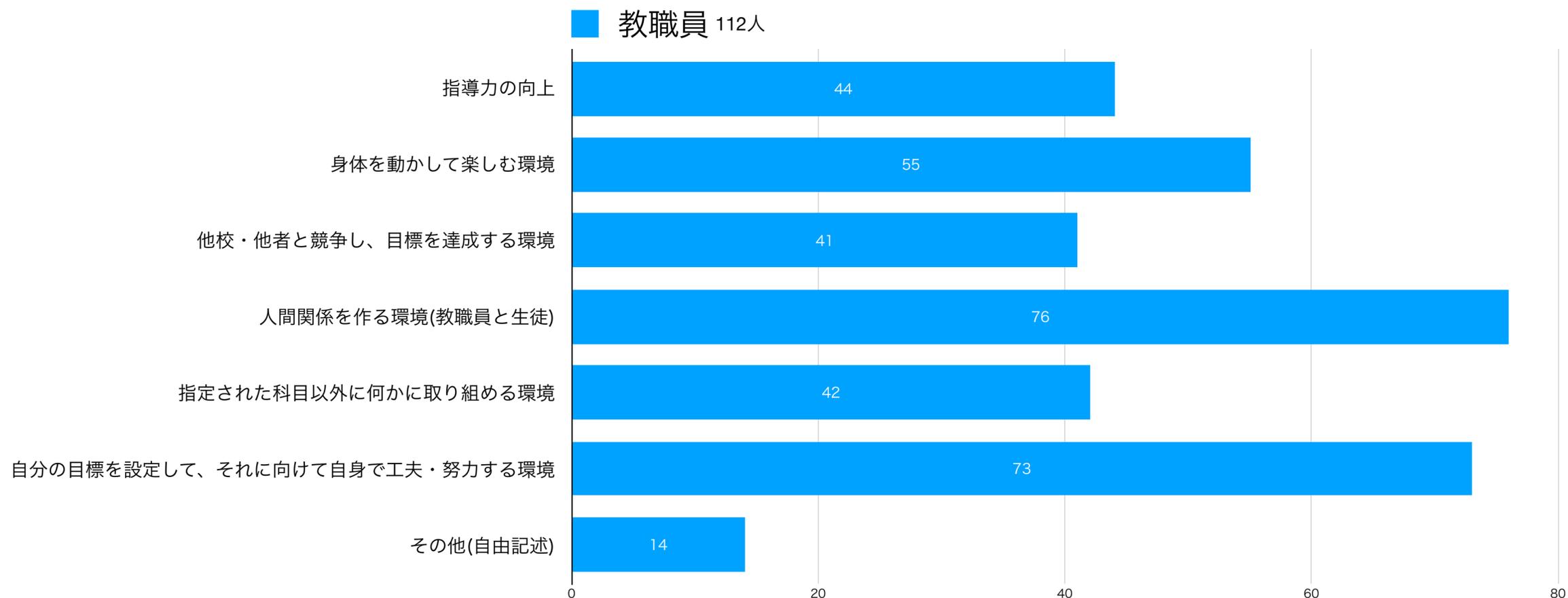
- 部活動として実施した方がよい
- 部活動と地域クラブの両方で実施した方がよい
- 地域クラブで実施した方がよい
- 部活動以外の学校教育で実施した方がよい

※. 質問は生徒に対して運動部活動への参加で提供したいことに対して望ましい形を回答するもの  
 回答選択肢は「部活動と地域クラブの両方で実施した方がよい」の代わりに「部活動以外の学校教育で実施した方がよい」を用意

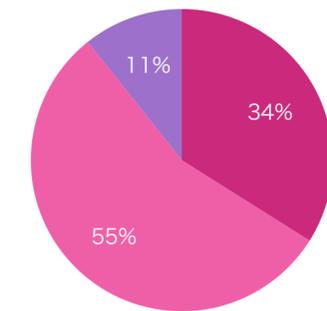
# 4. 運動部活動に取り組む教職員自身が求めていること

- ・部活動改革のきっかけの一つになった「働き方改革」の当事者の教職員の声に焦点を当てた本質問に対して、教職員の約半数以上が「人間関係を作る環境(教職員と生徒)」「自分の目標を設定して、それに向けて自身で工夫・努力する環境」を求めている結果となった。
- ・運動部活動の地域移行の有無に関わらず、教職員の働く環境をより良くするために継続して議論をするための参考材料になると考える。

ご自身が運動部活動に求めていることを3つ教えてください



運動部活動に求めていることはどのような形が望ましいかを教えてください\*



- 部活動として実施した方がよい
- 部活動と地域クラブの両方で実施した方がよい(選択肢無し)
- 地域クラブで実施した方がよい
- 部活動以外の学校教育で実施した方がよい

※. 質問は教職員自身が求めていることに対して望ましい形を回答するもの  
回答選択肢は「部活動と地域クラブの両方で実施した方がよい」の代わりに「部活動以外の学校教育で実施した方がよい」を用意

# 5-1. 自由記述 中学校の運動部活動に求めていること

- ・ 体力向上、生涯における余暇活動への興味関心の寄与
- ・ 好きなことで努力することを経験させるで、多少嫌な事でも努力する力を身につけさせたい。

- ・ 自分の将来につなげたいから
- ・ 友達との交流の場
- ・ 一致団結し素晴らしい組織に作り上げることでできる部であること
- ・ 運動能力の低下を防ぐ
- ・ 何かに熱中することができるようにすること
- ・ 自分の好きなこと（趣味）を友達と楽しくやりたい
- ・ 目標を達成する喜びを味わうこと
- ・ 集団の中、上下関係の中で自分の役割や責任について感じ、考えること
- ・ クラス担任以外との交流
- ・ 学年、国籍、性別に関係なく楽しめる環境
- ・ 時には苦しく、時には楽しく、雰囲気がいっきりしているいろいろなことに忘れられ没頭できる所
- ・ 礼儀や人間性を育てる
- ・ 自校の校庭、体育館等施設を(無料)利用できること
- ・ 部員全員が自分の意見を言える環境

- ・ 仲間と1つの目標に向かって努力し、成し遂げること
- ・ 基礎体力の向上
- ・ 競技について、より専門的な知識を身につけ、体現できるようになること
- ・ 学校の先生が顧問をして負担になるよりは、外部から専門の方を部費で少しお金を払ってでも、顧問として迎えてもらった方が、部活動の技術向上や、大会への目標なども変わってくると思います
- ・ 自分の居場所
- ・ 保護者の負担が少ないこと
- ・ 勉強はどちらかと言うと受動的ですが、部活は能動的であり、思春期の難しい時期は何か打ち込める環境を作るのが心身ともに健康に育つ助けになると思います
- ・ やってみたい事(実験)ができるから。理科部
- ・ 勝敗も時として大切だが、すべてではない。活動にたいするモチベーションの方が大切
- ・ 先生だから解る学校生活の顔とは異なる生徒達の一面を見てもらうことで、より効果的に成長を促す教育や指導を与えてもらいたい
- ・ つらいこと、しんどいことを仲間と共に乗り越え、その先にある達成感や充実感を味わって欲しい
- ・ 大会に出場して好成績を残し、推薦入試の要件を満たすこと
- ・ 楽しいこと、辛いこと、困難を乗り越えたり、喜びを共有できる同志がいる心強さを身をもって体験していくこと

## 5-2. 自由記述 環境として重要視していること

- ・生徒指導が適切に行われていること
- ・部活動の時間を授業時間に組み入れる
- ・志を共有できる仲間(生徒、教員を含め)がいることが一番だと思います

- ・チームとして仲間はずれがなく、oneチームになれること
- ・練習の内容が濃いこと
- ・部活内で陰湿ないじめ等があった際の適切な対応
- ・お金は多少払ってもいいから得るものが多い方がいい。例えば希望制にして払ってやりたい人はこの日に来る等してほしかった
- ・自分がこの部活で三年間一生懸命取り組めるかどうかということ
- ・綺麗で自分の実力をあげられるような環境、ブルーロックのような感じ、そのスポーツの専門的な場所、それを極めたものがある
- ・学校の管理下で出来ること
- ・上下関係はあるけど、仲がいいこと（先輩後輩関係なく）
- ・指導者、顧問が前向きであること!!
- ・学校で行う意義が明確であること(習い事との違い、部活の良さがあると思います)

- ・本当は一つだけのスポーツに限定するのは、疑問が多い。アメリカのように複数の競技ができる環境が整備されることが理想
- ・指導者、指導方法を第三者がチェック
- ・目標をステップアップしたくなる環境
- ・子ども達が自ら考える改善していけるように導いてくださるような指導ができる指導者がいることが大切だと考える
- ・学習との両立ができる環境にあること
- ・指導者の心の余裕があり、過度な疲労がないこと。
- ・スポーツを余暇として気楽に楽しめる環境であることが一番
- ・活動を見守ってくれて何かあった時に対処してくれる大人がいること
- ・保護者の負担が少ない環境。勉強と両立できる環境。(試験前、試験中は活動原則無し等)
- ・本人が楽しんで活動出来ること
- ・地域移行によって教員の負担を減少させる、地域で指導者を募り活性させるのは良いこと
- ・自己を追求し、発達していける環境として部活動を設定していただきたい
- ・家庭の用事や様々な校外活動も並行して行う中で、部活動は絶対に休めない、部活動優先という意識を子供に植え付けるような状況は、義務教育課程での部活としていかなものかと思う
- ・誰に対しても平等で丁寧、真摯に向き合える指導者が身近にいること(好き嫌いで言動を変えたり気分屋だと子供たちは感じ取ります)
- ・サッカー部ですが、クラブチームに行く程ではないがサッカーを続けたいので部活に入りました

## 5-3. 自由記述 中学校の運動部活動に求めていることは どういう形で実現するのが望ましいか

■ 教職員  
■ 生徒  
■ 保護者

### ①部活動として実施した方が良い

- ・日頃の学校活動と切り離さずに指導していく方が生徒理解に基づいた効果的な指導になると考えるため
- ・地域クラブでの実施でも構わないが、学級活動だけでは身につけることのできない力や経験をさせて生徒の心身を育てていく活動はこの仕事を選んだ者としてその責務を果たしたい。
- ・子どもたちにとって、部活動は学校の中で1,2を争う順位で生活しているので、学校生活と連携して行くことが大切である。
- ・集団行動や課題解決能力の向上、遠征の際には公共の場や会場校でのマナーを学ぶ等、教育活動の一環として適していると考えます。
- ・安価で慣れた先生や生徒同士でできるから。
- ・集団生活の場である学校で行うことが大切である。
- ・クラブチームでは参加できない生徒がいたりあきらめる生徒がでてくると思う
- ・教育活動の延長線上でやる方が信頼関係などもあるためより良いと思う
- ・生徒の様子(個人個人の特性、家庭環境、人間関係など)を比較的理解できているのは、教員。クラブチームのように『教育』ではなく『競技力の向上』を第1の目標にしているのなら、生徒の様子は関係ないが、そこまでではなく、やりたいことを通して『教育』をしていくのなら教育のプロである教員が指導をしたほうが良いと思う。
- ・学校部活動は、学校生活と密接に関係していて、教育活動に役立っているからです。運動部活動や教員は、ブラックな職場というイメージがあるが、見合うだけの報酬が支払われていないから、苦情が出るのです。見合う報酬が支払われれば、良いと思う。

- ・同じ中学校じゃない生徒と行うと思うと人間関係がうまくいかなくなると思う。また仲の良いライバルとともに戦うことで伸びやすくなると思うから。
- ・知っている人が多いほうが気が楽
- ・部活動をしている人の中には、この部活が自分の好きな先生だから選んでいる人もいるからそういう人たちにとっては、学校の部活動に意味があると思う。
- ・勉強だけ、委員会とかの学校行事だけでなく、部活動も含め、総合的に成長を見て行ける場であり、よりよく成長させるためにアプローチできるのが、学校だと考えているから。
- ・地域活動だと、私的活動になり親がか関わらなくてはならないため、土日に仕事がある家庭は入れない。部活として学校に関わらないと無理。
- ・地域のクラブだと学校でサッカーの話をする仲間がいなくなるから
- ・上下関係を築く手段として、委員会と部活動でしかないため

## 5-3. 自由記述 中学校の運動部活動に求めていることは どういう形で実現するのが望ましいか



### ①部活動として実施した方が良い

- ・地域クラブでは、別の中学との出会い関わりもできるが、大会などは中学別となるため、同じ中学の部活動の方がよい。
- ・学校の仲間みの環境でスポーツを通じた経験を共有することが、普段の学校の生活にも良い影響を与えると思うため
- ・所属する団体が部活だと、自分の学校であるため、学校の代表である意識も高まると思う。先生方の負担が大きいのは重々承知ですが、専門の指導者がいてくれる環境で、なおかつ学校内で、自分のため、チームのため、学園のために活動できたら、それが1番の理想です。
- ・現在クラブチームと部活と両方に参加しているが、クラブチームの活動は勉強との両立が頻度、レベルが合わない、時間、移動などの理由で難しいと感じる事が多い為。
- ・部活動で実施した場合、高校進学時の内申にも加味されますが、地域クラブとなった場合、学校の関与が不明瞭で、内申への影響がどのようになるのかもよくわからないので。
- ・現状部活動に活発な活動がなく、外部に流れてしまうので、部活が充実すれば、外部に行く必要がないから
- ・授業以外で仲間とスポーツが楽しめて生き生きできる環境ならいいと思う
- ・部活動の方が学内の友人とより深い関係を作れるから。毎年クラス替えがあり、クラスでの友人は変化していきますが、部活動では3年間通しての関係が出来やすいと考えています。
- ・地域クラブをやるかどうかは自由ですが、毎日通う中学校での部活動は、子どもの学校での楽しみでもあり、さらに活力ともなっていますので、生徒の加入率の高い部活動に焦点を当てて回答しました。
- ・教職員からの指導により、信頼関係が深まる。また、上級、下級生との関わりから、他者との協力関係を築く能力が身につく。
- ・現状のままが望ましい。外部委託はすべきでない。教育的効果、安全性、費用の問題から。
- ・駅伝部などは、杉並区の駅伝大会もあるので、先生直轄にしたほうがいいと思う
- ・年に一度でも子供がどんな部活かあったら入りたいと思っているか、などのアンケート等を取り、先生方に子供の心を知る機会を設けるのも一つかと思いました。自分のやりたり部活があればやる気に繋がると思いました。
- ・部活が学校活動の一つとして存在して欲しいです。指導者については外部講師などの活用で教員の負担軽減を図るなど改革が必要と考えています。部活だけでなく1学級の生徒数を減らすとか、教員数を増やすなど、学校環境全体の改善が同時に必要だと思います。
- ・転居に伴い入学した為知り合いもない そのため部活動で学校の友人関係を広げて欲しい
- ・学校が状況を管理しやすいと思うので
- ・親の負担が1番軽いと思われるので
- ・学校対抗がある方が目標なりモチベーションを上げれたりするのではないのでしょうか。
- ・地域クラブの場合は、始めからやる気のある子供しか入らなくなると思うので、学校の活動としての部活動の方が生徒が参加しやすいと思います。
- ・現状はこういう風に関われるような雰囲気ではなく、本気で取り組みたい〜別に部活動やらなくていい、という間の中間層が気軽に参加できるようなものではないような気がします。本気で取り組みたいことは校外活動でしているが、部活にもできる範囲でみんなと一緒に参加したい、など色々な事情の生徒の受け皿であってほしいです。
- ・放課後の活動ではなく、授業時間内で完結する形が理想で、そうして全員がなにかしらの運動・文化活動に携わるのが望ましいとおもいます。
- ・中学＝部活みたいな印象があります。部活がないと塾と変わらない気がします。気を抜く場面があった方がいいです。
- ・部活動があることにより、学校が楽しく、また行きたいとおもえることもあるから。

## 5-3. 自由記述 中学校の運動部活動に求めていることは どういう形で実現するのが望ましいか



### ①部活動として実施した方が良い

- ・学校内での交流の場が必要だと思うからです。
- ・現在それぞれの部活でコーチを呼ぶだけでも資金面で問題があり公平にできないのに、限られた予算、時間、場所で多くの人が満足できる運営を地域クラブができると思えない。お金を徴収するのであれば財政的に厳しい家庭のお子さんにしわ寄せが行くだろうし、部活だからと参加するようなおさんは部活がなくなれば今以上にスマホやゲームをする時間が増えると思う。地域感の格差も益々増えるように感じる。先生の負担を減らすというのであれば技術面で外部コーチをもっと増やしたり、地域の人に呼びかけて助けを求めたり、できることはあるのではないかなと思う。
- ・学校を跨いでしまうと、試合などで戦う相手がいなく（少なく）なってしまうから。（反面サッカーや野球など人数の必要な競技は近隣校と合同チームを作る他ないとは思っています。）地域クラブの形になると、親の経済的、人的負担が増えるから。こういう負担は主に母にのみかかりがちで、働く母にとってこれ以上重荷になることが増えるのは正直厳しいです。
- ・学校の仲間と先生と共に、授業以外で関われる場があることが、望ましいです。ですが、先生がルールがわからない、指導できないという状況であれば、適切に指導できる外部の方に来ていただきたいのはわかるので...場合により外部の人が来てくれることが望ましいです。
- ・学校内でのつながりを深めて欲しいから。
- ・学校ごとの団結を深めるべき。
- ・現在学校の先生との交流を楽しんでいるため。
- ・学校の中で完結できるのがありがたいからです。移動せず子供が学校にいる、という安心感が親にはありがたいので。でも顧問の先生の負担が大きくなるのは理解しています。技術の向上はイマイチでいいです。週4だったのを3にしてもよいので校内で活動してほしいです。
- ・学校対抗の大会や、トーナメントは実施して欲しい
- ・範囲が広がると人間関係が煩わしくなるのではという気がするので
- ・学校が、人間関係や興味を持った事柄について、より深く学べる場所であってほしい。
- ・活動範囲の権限や事故などが起きた時の責任の所在が曖昧になりにくいと思われるから。
- ・現状で考えた場合に、部活動という枠でなくなってしまうと、子供達の意識が下がり、一生懸命やりたい子とそこまでではないのの気持ち的格差が更に開いてしまうように思います。ある程度の強制力が必要で、地域クラブとなった場合にそのあたりがどうなるのかが心配です。

## 5-3. 自由記述 中学校の運動部活動に求めていることは どういう形で実現するのが望ましいか



### ②部活動と地域クラブで実施した方が良い

- ・多くの人が平等にスポーツが行えるべきであるから。
- ・全員が満足できるようにするため
- ・運動を通して地域の人と交流できると人間関係が広がったり、地域の方の顔を覚えていたほうが犯罪などがしにくい地域になると思うから
- ・双方のメリットがあるため。地域クラブのメリットは、学校の先生方の負担は減らした方が良く、専門のコーチから技術的な指導をしていただける。一方、部活のメリットは、授業以外の頑張りを先生方に見ていただける。
- ・学校の先生方は多忙を極めていますし、1人の指導者のもと活動するだけでなく、他の指導者とも知り合えることで、指導内容の幅が広がることを期待したいから。
- ・他のところと交流することでもっと良くなると思う。それぞれどんな練習方法か、それぞれ部活の状況はどのような感じかを確認することができるから。
- ・学校に通てないひともいるからクラブでもできるようにしたほうがいいと思う。
- ・活動だけでは人数が足りずに部活として活動できないスポーツが多くあるため。
- ・現状の部活動は時間も場所も限られていて、本気で取り組み区を超えてブロックや都の大会での活躍を視野に入れている人にとっては非常に物足りないと感じている。仲間と定期的には体を動かしたい人にとっては程よいのかもしれない。
- ・無理に全てを学校内で完結せず、頼れる部分は地域に移行しても良いと思う
- ・校内だけでは人数が集まらないことがあり、夢を諦めないといけない可能性があるから。

## 5-3. 自由記述 中学校の運動部活動に求めていることは どういう形で実現するのが望ましいか



### ②部活動と地域クラブで実施した方が良い

- ・学校と地域が連携して行った方が幅広い支えや指導が受けられ、こどもと地域の繋がりが広がり地域全体での子育て支援活動に繋がると思います。
- ・個人の部活動に対しての求めている事、熱量の違いがあるため、本気でスポーツを考えている方はクラブチーム、楽しくスポーツをと考えている方は部活動など、個人の選択肢があって良いと思うからです。
- ・学校で取り組めないことを地域で補えば、参加出来る機会が増えるので。
- ・活動によっては人数が集まらなかったり、施設が学校内では不十分であったりと思うので、活動によって部活動と地域クラブと分ければ良いのではないかと。
- ・選択肢は常にあるべきだと思うから
- ・学校の生徒数が少なく、やりたいスポーツが選べなかったり、部員数が少なく活気がなくなり子どもたちのやる気のなさに繋がっていると思うから
- ・陸上、卓球など少人数でできるものは学校で。少子化もあり集団は地域クラブで他の学校と合わせた方が、練習になるのでは。
- ・様々な部活がそれぞれ満足の行く活動を行うには限界もあり、地域クラブと連携しながら活動を行えるとお互いにとってもメリットが大きいと考える。
- ・部活動であれば学校でのつながりが保たれる、地域クラブでは学校の枠を超えてつながりが作られるから。
- ・適切な指導者がいれば地域が良いけれど、いない場合は両方で指導してもらい、慣れたら地域へ移行が良いと思う。
- ・地区を区切り近隣の学校いくつかを一括りにしてひとチームとしてそして地域クラブの指導者の活用をするのが部活動として存続可能な方法かと思います。
- ・先生の負担を減らしてあげること、色んな経験者に触れる機会を作ってあげること
- ・子どもたちが部活動で上下関係を学び、切磋琢磨し成長する部分は大きい。先生方の負担増加も懸念されるため、地域クラブとの連携で解決できるのであれば、是非そうして欲しい。
- ・学校生活に密着しているからこそ盛り上がるし、取り組める部分もあると思う。ただ、教員の負担があまりに大きいことから地域クラブ人材の活用は必要と考えます。
- ・指導できる人がいるかいなか。どっちかに決めるのではなく。教員たちも部活指導研修を任意で受けて、義務ではなくオプション仕事として引き受けるようにならないか。  
また、研修を受ければ教員じゃなくても指導できるようにすればよいと思う、・部活動で地域と繋がる事は地域発展にも繋がると思います。
- ・部活動だけになると偏った指導になってしまうので地域連携で子ども達を見守って欲しいです。先生の負担軽減にもなるかと思います。
- ・学校の部活で適任の指導者がいるとは限らないので
- ・家庭の事情が多様化していること。どのような家庭/経済環境にあったとしても、やりたいことのある子どもが活動できる場所が必要だと思うから。
- ・同じ学校という属性でつながる部分はあると思う。また、地域に任せると費用がどうしても高くなる(ボランティアは高齢者しかかなり手がなく、指導するとモラル、コンプライアンス的に昭和をひきずってしまうので、それを排除するためにはある程度の対価は必要)。反対に、今はそうした部分を先生方に頼っているわけで、限界を迎えている。保護者も、中学生だとほかに小さな子を抱えている場合があってたいへんすぎる。公的な仕組みとして、指導者をプールしたり、週末の練習試合や大会の引率者を地域から募るのはありだと思う。
- ・学校の先生の負担を削減するためと、色々な大人目を見てほしいから。
- ・学校内だけでなく、他の分野も含め、指導者が複数名いることで、偏りの少ない評価と、より良い検討を積み重ねることができると考えます。
- ・負担を感じる先生にとっては余裕も気持ちも無く生徒にも良い影響が無いと思うので、学校で対応出来ない部活は地域にお任せしたら良いと思います。

## 5-3. 自由記述 中学校の運動部活動に求めていることは どういう形で実現するのが望ましいか



### ②部活動と地域クラブで実施した方が良い

- ・本当は学校の部活動としての実施が良いと思っているが、近年の先生方は多忙であることから、地域に移行した方がよいところがあると思う。また、顧問の先生が教科の先生だと成績に響くのでは、先生から嫌われるのでは、と意見を言うことが難しい。
- ・少し地域クラブを取り入れた方が良くと思う。顧問の先生が転勤になり、新しい先生になると指導方針がガラッと変わってしまった
- ・学校の部活動だけでは、指導に限界があると思うから
- ・学校の中だけでなく地域に開かれた活動、第三者の目がある活動がなされた方が風通しが良くなると思う。指導者のヒートアップ防止にもなるのではないか。
- ・部活動に所属すると、上手になるためだけではなく、学校に通うための理由になる。人間関係など、クラスより仲良くなりやすいと思うから。
- ・部活の種類によってもどちらが好ましいかは変わるから。
- ・部活動の短い時間だけでは技術の習得が困難なため、部活動と地域クラブの良い所を活用するのが中学生くらいには望ましいと思う。
- ・学校の部活動でも地域クラブでも良いですが、自分に合った活動を選べる環境があると良いと思います。
- ・こどもが、地元で運動に専念できる環境ならどちらでも良いです。
- ・様々な家庭の事情や教育方針に寄り添えるよう、運動に取り組める場も多様性がある方がありがたい。
- ・地域クラブに限らず、時代や地域などに合わせて色々と試していくことが必要だと感じるから。地域がらや保護者の意識なども、学校によって違うと思います。それに合わせて、子供たちのために最適なものは何か、色々と試していくべきかと思います。
- ・学校の設備を使用できるのは部活動の利点だが、顧問の先生の都合で活動時間が制限されることもあるので、部活と地域クラブと両立することで、活動機会を増やしたり専門のコーチに技術指導いただく機会が充実すると良いと思います。
- ・学校以外の人達との交流や内容、指導者の充実が期待できる。公費助成があれば家庭も民営クラブもよいのでは。
- ・先生の負担軽減も求めますが、先生とのコミュニケーション場にもなっていると思うため。
- ・学校の先生との関わりが大切だと思うので、地域の方のサポートを受けながら、先生主体で進めるのが望ましいと思います。先生の負担が多い場合は保護者への協力呼び掛けもありだと思っています。
- ・適切な指導者と環境が整うなら学校内にこだわらず広い視野の環境で取り組むのもありだと思ふ
- ・学校教諭と外部指導者との違う指導での相乗効果が得られると思うから。
- ・双方のメリットがあるため。部活動のメリットは、授業以外の頑張りを先生に見ていただける。クラブのメリットは、先生の負担を減らせ、専門のコーチから技術的な指導をしていただける。
- ・中学ではなくて高校時代の話で申し訳ないが自分自身がマイナースポーツ競技部出身であるので、学校のみだけにスポーツの全てを任せる難しさがわかる。地域に頼れる人材がいるなら活用しても良いと思う。
- ・部活動は学校の課外活動であり最終的な管理者は学校の先生がよいと思います。実際の活動は地域の指導者がよい。研修を義務付け、ハラスメントなどトラブル防止に努めて欲しい。先生の中には部活動の指導がしたい人も一定数いて完全に地域に移行はできないのではないか。指導したい先生とそうでない先生と、双方が納得できる体制を検討いただきたいです。
- ・在籍校を超えたいろんな人との関わりを通じ、子ども自身が気づけることも多くあると思うから
- ・地域クラブだけでは活動時間が限られたり指導者が足りない

## 5-3. 自由記述 中学校の運動部活動に求めていることは どういう形で実現するのが望ましいか



### ②部活動と地域クラブで実施した方が良い

- ・活動の実務は地域に移管しても良いと思うが、活動内容や状況を学校側も把握し、問題があれば介入も必要だと思う。
- ・何を重視するか、本人や家庭によって違うので。完全に地域移行してしまうと、気軽にスポーツを楽しめなくなり、スポーツ人口が減ってしまうと思います。また、同じ部活動仲間との関係が深いので(他学年も含めて)、人間関係を深めるのに大事な役割をしていると思います。
- ・部活動によっては、楽しむ物と結果を求める物に分かれると思う為。
- ・技術だけでなく、いろいろな大会や試合も経験させたいので、どちらとも選べない
- ・地域クラブで小さい頃から同じスポーツができるのは、学校や年齢関係なく長く続けられるのでいいと思います。中学校の先生はとても忙しいと思うので、部活動の顧問という立場から解放されるといろいろな時間が取れるのではないのでしょうか。まだまだ実現に向けて課題があると思いますが、将来的にそうなればいいと思います。
- ・地域完全移行となった場合、第三者的な立場の人間がいないと、指導者が暴走し、食い止める方がいるのかと思う。現にそのようなことが起きていると思う。現状は、指導者と同等にものを言える学校長の役割は大きいと感じる。それは指導をお願いしている保護者からすると、指導者にはものが言いにくい。また生徒自身も顧問の先生(学校側)には言いやすいのではないかと思います。
- ・現在やりたいスポーツが部活動になく地域クラブに所属しているが、指導者が就労しているため夜の練習がほとんどであり、また通うにも時間がかかることから、学校の課題や他の活動、塾や通院等にかける余裕がない。地域クラブへの移行をするならば、活動場所とチーム数を増やし活動日程を選べるようにすべき。通うことに時間がかかると学業と地域クラブでの活動の両立は難しい。区内区外問わず、距離的に自宅から自転車を通える範囲の施設(中学校含む)で早い時間帯に活動を開始できる環境(外部指導員の確保、有償化に関わる財源確保)が整えば、自校での部活にこだわらず活動できると思うので顧問の先生方の負担はなくなると思う。
- ・中学校の部活動として活動を続ける場合も、外部指導員が足りない等で顧問をされている先生方にも別途報酬は出すべきだと考える。やりがいを見いだしてくださる先生も、責任感の強さや上からの圧力等で引き受けざるを得ない先生も(良くないが)、負担は大きいはずで無償で引き受ける時代ではない。先生方はボランティアではない。まずは学校教育の充実のために限られた労力を使っていてほしい。また、中体連主催の大会に出場しない部活動・地域クラブなら、スポーツは好きだが競技が苦手な子供でもやりやすく、活動の幅は広がるのではないか。
- ・現在適切な指導者がおらず、練習しても上達しない。(初心者の子供たち同士で練習している)また、それに伴い子供たちのやる気も低下し、活動に参加する児童が減っている。やるからにはきちんとレベルアップをして、試合に勝つなどモチベーションをあげさせてあげたい。
- ・外部コーチや顧問によって子供達の上達が違うと思う。子供が自ら選んで自分に合う顧問やコーチに教われる環境になればいいと思います。
- ・人間性関係にまだ拙い中学生が上下関係、仲間、他校との関係に学校の先生が全くいない状態で正しく対応できるのか不安。しかし先生の負担を増やしたくはない。
- ・部活でも地域クラブでもどちらもメリットがあり、全ての人にとってメリットの多いやり方(優先されるべきは当然子供達ですが)で運営出来ればいいと思います。運動が得意な子は、更なるレベルアップや、試合に勝つ事の達成感を味わいたいなど、だと思えます。が、そこまで得意ではない子、忙しい子は、楽しく、週に1、2回健康維持?の為にやりたいなどと思う子もいると思います。運動が好きだけど、下手なので、部活はハードルが高いと言う子も聞いたことがあります。そういった、両方の思いを叶えられると思いますし、それを先生方だけに頼ってしまうのも申し訳なく思います。もっと教師の数が昔みたく増えたらいいですが。外部のコーチだけ、や、顧問の先生だけ、に頼るのではなく、両方の大人、沢山の大人がかかわる事も子供達の健全な心の成長に繋がるかなとも思います。
- ・中学校によって部活の種類に限られる。近くの中学校で合同チームを作れば、種類も人数も増やせていいのではないかと。先生方の負担を減らせるといいと思います。

## 5-3. 自由記述 中学校の運動部活動に求めていることは どういう形で実現するのが望ましいか



### ②部活動と地域クラブで実施した方が良い

- ・学校以外のコミュニティも必要だと思う
- ・地域クラブもあると学校内だけじゃなく、たくさんの経験や出会いがあるから
- ・独自のクラブがあるのも個性として必要。しかし、地域でまとまる事で指導者が増える・部活動の種類が増える・仲間が増えるという形になれば、子どもたちの選択肢が多くなり良いと思います。
- ・部活動に無いものを地域クラブで補えるであろうし、風通しが良くなり、この部活なら内申点が上がるなどの打算的な参加理由が減るのでは無いと思う。
- ・専門でない先生が顧問になると、先生にも生徒にもメリットが少なく、良い結果にならないと思われる。部活動によって、費用が変わると公平性が保たれないかもしれないが、地域移行する部活動はその部活内で部費を募ってコーチを頼むなどすれば良いと思う。生徒のやりたい、上手になりたいという気持ち、中学校でしかできない一体感だったり大会で勝ち抜く達成感を、大事にしてあげたい。それは、先生の犠牲の上にあるべきものではない。
- ・部活動でも地域活動でもいいのですが、大会があるのなら指導者がきちんと指導して頂きたい。顧問以外に指導者がきちんといて、たくさん練習できている学校との実力の差を目の当たりにしたので、子ども達がかわいそうでした。
- ・どうしてもその運動がやりたくて部活に入って、もし人間関係が上手くいかなかった時に、地域に移れたら良いと思う。その場合、内申にも付けられるようになっていけばなお良い。
- ・部活動の顧問をしたい先生もいるので、その方も地域クラブと同じ扱いが望ましい。ただ地域に受け皿を求めるとしたら、それが成り立つだけの資金（予算）が必要と感じます。

## 5-3. 自由記述 中学校の運動部活動に求めていることは どういう形で実現するのが望ましいか



### ②部活動と地域クラブで実施した方が良い

今回の「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」に際して、関係者のみなさまで推進されていることに大変貴重な意義を感じます。この場を借りて感謝をさせていただきます。回答を超えた部分まで含み恐縮ですが、思うところを記載いたします。

私は、2(部活動と地域クラブで実施した方が良い)の回答で実施が出来ると感じています。

#### ●取り組み意義の優位性

スポーツをするということにおいては、部活動と地域クラブは受け皿や組織形態の話で合って、スポーツを行うということ自体にはなんら影響がないと感じます。現在、学校教員のみでの部活動から、民間移行・地域移行を含めた地域クラブ導入へ試行されており、非常に現在的な課題と取組と感じます。

#### ●課題・問題点

教員の働き方改革の実践、地域クラブ導入のために①指導人材の確保②運営組織の整備③民間導入にあたる予算の確保、等学校側と民間側の各々の課題と解決があると感じます。特に③の予算確保はハードルが高く、継続的な予算確保は難しい反面、これまで教員のほとんどボランティア？で実践していたことを急に民間のボランティア、にすり替えることはもっと難しいと感じます。義務教育期間のスポーツの機会はある程度等しく与えられる方が望ましいと考えますので、部活動を受ける中学生から参加費等受益者負担の道に進むのはあまり好ましく感じていません。上記の地域クラブ両立の意義は非常に同感し賛成なんですけど、諸点の課題は、地域クラブへと移行していく大きな課題と解決点の難しさかなと感じています。

#### ●解決の方向性

##### ・地域クラブ導入の理解促進

私は、少し前から部活動の地域移行のお話を伺う機会を頂戴し、富士見丘中の取組をアルティメット部活動を通してご協力させていただいております。そうした中で、上記の部活動経緯・取り組み思想・少し先のゴール、までお話を拝聴させていただいておりますので、概ね今回の取組や背景を理解しているつもりです。

しかし、初めて中学生のお子さんをもつご家庭、そして3年で卒業していく期間の短さ、またそれを実践する中学生の生徒さん自身、なんとなくいままでイメージしている部活動のイメージとの違いなどあるかと思いますが、今回用意された説明動画や資料を通して、部活動の今、を理解いただければ、かなり部活動地域移行を進めやすくなるのかなと感じました。

##### ・中学生部員以外からの費用徴収・参加機会創出

地域クラブが民間で運営をしていくにはボランティアに近いものが求められていきそうですが、中学生以外の参加者からの参加費徴収や、なんらかの自浄努力で運営を成立させていく方向はあると思います。

また、学校教育の一環を鑑みると、制度移行が進む過渡期の10年程度は予算確保を行い、国として進める制度整備が必要と感じます。

一方で、受け皿の民間団体は、優先的な学校施設の利用や、一緒にスポーツを楽しむメンバーの確保や、親子・地域で中学生と共有する時間の創出等、メリットも大きいと感じます。

いずれにしても、双方のメリット・デメリットを考えたうえで、制度改革が着実に浸透する事を期待します。そのための、ご協力・お手伝いはしていきたいなと感じます。

## 5-3. 自由記述 中学校の運動部活動に求めていることは どういう形で実現するのが望ましいか



### ③地域クラブで実施した方が良い

- ・前は部活動にかけることができる時間が多く、授業以外で見せる生徒の新たな一面を発見することができるのが学校の部活動として行うメリットだと考えます。近年は個別対応や教員の仕事量が増え、十分部活動に時間をかけることが難しくなっているのが現状です。
  - ・教員の仕事が多すぎるので、教員の数が増えない限り難しいと思います。
  - ・部活動の教育的意義はあると認識しているが、現在の教育課程や勤務環境で学校で継続するのは難しい。部活動を学校で行うならば代わりに他の活動を削ったり、学校で働く人を増やすことが必要だと考える。
  - ・生徒数の減少により人員確保が難しいから。
  - ・教職員の業務過多の中で、部活動指導は重荷です。本来、教職員は教科指導や生徒指導に特化するべき存在であり、部活動に時間をかけている暇はありません。
  - ・そのスポーツの経験が十分にある人が必ずしも顧問になるとは限りません。むしろ、学生時代に経験のないスポーツを任せられたり、運動部を経験していない教員が運動部顧問を持つこともあります(自身もそうです)。生徒目線で考えた時に、やはり指導してもらえる大人は専門家の方がよいと考えます。教員の負担も大きすぎます。
  - ・教員の負担が多すぎると感じます。しかし、部活をここから楽しみたい教員もおりますので、そこは難しいところです。
  - ・あてがわれた指導者に意欲を感じない
  - ・学校教育の枠組みで実施するには無理があると考えため
  - ・地域クラブとして実施できるのであれば実施していくのがよいと思うが、実際部活動を運営する教員の役割は大きく、それを地域クラブが担っていけるのかはとても疑問をもちます。地域に所属するスポーツクラブの生徒は今までもおりましたが、学校の中で行われているような教育的指導（人間関係のトラブルなど）をしっかりと行っていないようなクラブも存在していたように思います。そういったことを含めて指導していけるのであればぜひとも地域クラブで実施していただきたいと思います。
  - ・現状でもやるのがたくさんあるから。
  - ・技術を向上させるために、それなりの専門の人を雇って、お金をきちんと支払うべき。自分の身になることのほとんどはお金がかかることが当たり前だと思う。月に5000円など、指導に対して、高い費用を支払うのは妥当だと思う。学校の教員の数より、地域住民の方が数が多いからより質の高い指導ができる経験者を探しやすいと思う。
- ・地域の方々とやったほうがいろいろな方とかかわれるから
  - ・経験のない顧問がつくよりも、経験のある指導者がいた方が、技術向上が見込めるから
  - ・専門的な指導や顧問の移動などで継続した指導ができないや働き方改革の一つと理解している。少子化ということも踏まえると地域に移行していくのもよい
  - ・先生には魅力的で学習する事に興味をわくような授業の準備に力を注いで欲しい。先生達にもしっかり休養をとっていただきたい。

## 5-3. 自由記述 中学校の運動部活動に求めていることは どういう形で実現するのが望ましいか



### ③地域クラブで実施した方が良い

- ・学校とは別に世界がある事で心理面で安定に繋がると考えるから
- ・部活を学校から完全に切り離さないと、スポーツが教育の手段になってしまうから。スポーツは余暇でしかない。
- ・教職員の方々が日々の教育に専念できるように。片手間に部活の顧問はできないと思う。専門の方に教えてもらえた方が、上達できると思う。
- ・本来、部活動に入らなくても集団生活のルールや目標を持って生活することはできるし、そのように教育しなければならないので、部活動が暗黙の了解のように入らないと気まずい今の雰囲気も変えていければ良いと思います。
- ・部活動は専門の指導者に任せ、先生の負担を軽減した上で本来の学業の方に集中出来る環境を整えた方が良いと考えたため。
- ・先生方は、日々の授業（授業準備）と行事、新しいシステムの導入（受験の申込みについて理解されていない先生が、いらっしゃいました。）で大変なご苦勞をされていると思います。思春期の子どもたちは敏感なアンテナをもち、先生の疲れや、気分にも影響を受けやすいと感じています。先生も土日にご家族と、またはお一人でもゆっくりした時間を過ごしていただきたいです。
- ・先生の負担を減らしたい。各スポーツごと経験ある地域の指導者が教えた方が、上達する。
- ・地域クラブでも実践できる、という意味でこちらを選択しました。適切な指導者の元であれば学びが得られると思います。子どもにとっては学校外の交友関係が拡がり、学校内とは違う新しい世界ができるのではないかと期待があります。
- ・先生が指導の立場だと、やはり絶対的な上下関係が出来てしまいます。内申が気になる生徒は先生に気を遣い、意見を言えず先生の意向に従わざるを得ない環境になってしまうと思うからです。
- ・教師の負担軽減と、学校を越えた人間関係の構築。
- ・高校受験内申では部活経験が問われるから
- ・学校内だけだと人間関係が狭くなりトラブルが起こりやすいと感じる。また、適切な指導を受けることができない。学校により実施できる部活や環境にばらつきがあるため。
- ・専門の方指導で怪我防止 教師の負担も減る スポーツ指導者の就職先が増える 日本のスポーツ能力も向上
- ・職員の働き方の負担軽減のために。部活を通じての生活指導や教員と生徒の感動体験の共有を他の形で補う事と適切な指導者の確保が課題となるのではないのでしょうか。
- ・学校以外の居場所が出来る。先生の負担軽減のため。
- ・教職員のリソースを部活動以外に集中して頂きたい為。
- ・学校の活動として行うのは、教職員の負担増でもあり、技量に差もあるので、指導を受ける側にとっても有意義といえないのではないかと考えているため。
- ・部活担当の教員は活動に対して専門的な知識をもっているとは限らない。学校生活と部活動は切り離して活動してほしい。
- ・適切な指導者がいることが子供にとっても勉強になり経験にも繋がってくるのではないかと。
- ・学校という安全な場でもあり閉鎖的な場でありながら、異なる居場所ができる気がするため。また、勝ちにこだわらずスポーツを楽しむ事ができそう。
- ・学校の先生の負担を減らす事で、先生になってくれる人材を確保する事ができるのではと思うからです。
- ・専門家の指導により、一層の技術向上が期待出来るから。教員による指導では特に身体能力の発達が著しい時期だけに伸びる可能性が限られてしまう気がする。また、教員、親以外の大人との関わりにより得るものも大きいと思う。
- ・生徒数が少ない学校では部活動の種類が少なくなり、本来やりたい部活がないが、内申のために別の部活に所属している場合がある。地域クラブで本当にやりたいスポーツに打ち込めることが望ましい。また、部活の先生の指示と地域クラブの先生の指示が異なった場合に子供達が迷う、不満を抱くことがあるため、1つのグループに属したほうが過ごしやすいと思う。

## 5-3. 自由記述 中学校の運動部活動に求めていることは どういう形で実現するのが望ましいか



### ④部活動以外の学校教育で実施した方がよい

- ・部活動は、顧問に任されているところがあり、身に付けさせるものがまちまちであるので、教育課程として実施した方が効果的だと考えます。
- ・スポーツの技術向上・身体を動かして楽しむ環境は体育の授業で提供できるから。自分の目標を設定して、それに向けて自身で工夫・努力する環境は、各教科の授業や特別活動で提供できるから。
- ・部活動が蔑ろにされている。
- ・そもそも放課後の部活動という形での実施が時代錯誤も甚だしいと考える。大半の学校が部活動への参加を強制していない以上質問1で答えた望むべきことに関しては、勤務時間内の学校活動の中に織り込むべきだと考える。

## 5-4. 自由記述 運動部活動に取り組む教職員自身が求めていること

- ・生徒が努力する姿から、パワーをもらえる
- ・平日勤務時間内の適切な活動
- ・適切な労働環境、責任に対する正当な対価、生徒の成長、教員の家庭に対する配慮

## 未来へ つなぐ 部活動改革

# 「未来へ つなぐ 部活動改革 アンケート」 集計結果

令和5年10月

東京都教育庁 指導部 指導企画課  
部活動振興担当

## 1 目的

都内の公立中学校等（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程を含む。以下、「都内公立中学校」という。）における部活動は、これまで生徒のスポーツ・文化芸術に親しむ機会を確保し、生徒の自主的・主体的な参加による活動を通じて、達成感の獲得、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するとともに、自主性の育成にも寄与するものとして、大きな役割を担ってきた。

しかしながら、部活動を巡る状況については、近年、少子化が深刻化する中、特に持続可能性という面での課題や、種目や分野の経験のない教員が指導せざるを得ない点、休日も含めた部活動の指導や大会への引率、運営への参画が求められる点など、教員にとって負担となっていることも指摘されている。

こうした状況を踏まえ、アンケートの実施により、都内公立中学校に在籍する生徒及びその保護者、都内公立中学校に所属する教員の意識を把握し、部活動の地域連携・地域移行に関する施策を推進する上での基礎資料を得る。

2 名称 「未来へ つなぐ 部活動改革 アンケート」

3 期間 令和5年7月13日（木）から令和5年8月7日（月）まで

## 4 対象

### (1) 対象校

公立中学校、公立義務教育学校、公立中高一貫教育校  
626校

### (2) 対象者（任意）

中学校第2学年の生徒及びその保護者、中学校第2学年相当学年の生徒及びその保護者、  
対象校の教員  
約174,000人

5 方法 Webアンケートフォームへの入力

## 6 回答状況

対象者全体の回答状況		対象区分ごとの回答状況		
回答人数	回答率	対象区分	回答人数	回答率
36,106	約21%	生徒	21,604	約28%
		保護者	10,332	約13%
		教員	4,170	約25%

## 7 調査結果に関する注意事項と説明

- (1) 各質問の集計は、無回答を除いて集計している。
- (2) 回答結果（百分率）は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までで示しているため、合計が100%にならないことがある（複数回答を除く）。
- (3) 複数回答が可能な質問の回答結果（百分率）は、該当質問に対する全回答数を母数として算出している。

## 8 目次

- (1) 「未来へ つなぐ 部活動改革 アンケート」集計結果【生徒】・・・・・・・・・・ 2
- (2) 「未来へ つなぐ 部活動改革 アンケート」集計結果【保護者】・・・・・・・・・・ 8
- (3) 「未来へ つなぐ 部活動改革 アンケート」集計結果【教員】・・・・・・・・・・ 16
- (4) 資料「未来へ つなぐ 部活動改革 アンケート」の質問と回答・・・・・・・・・・ 25

# 「未来へつなぐ 部活動改革 アンケート」集計結果【生徒】

1 回答数 21,604人

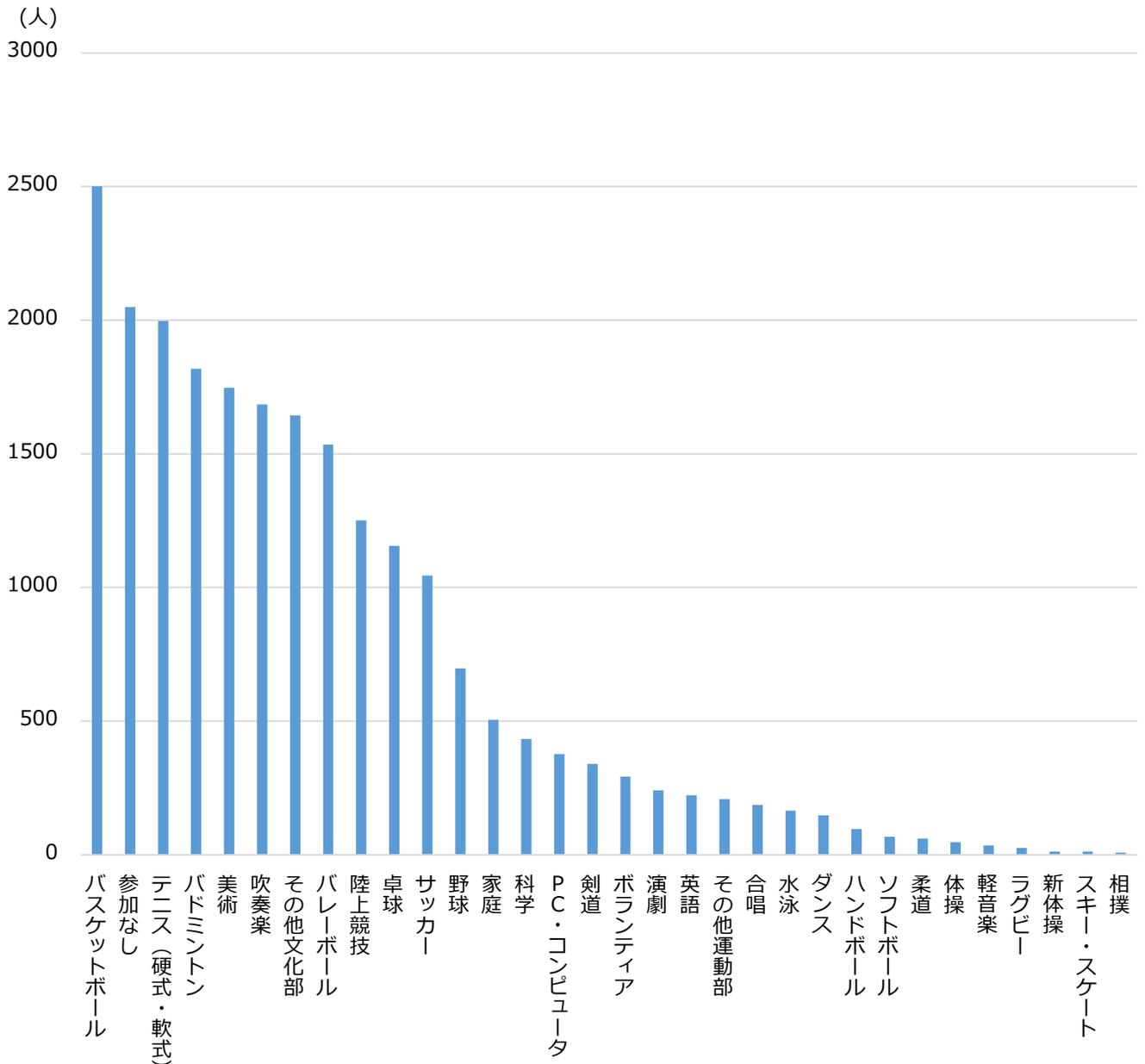
2 在籍校名 (省略)

3 参加している部活動：運動系 13,188人、文化系 7,369人、参加なし 2,049人

バスケットボール	参加なし	テニス(硬式・軟式)	バドミントン	美術	吹奏楽	その他文化部	バレーボール	陸上競技	卓球
2500	2049	1997	1818	1747	1685	1643	1535	1251	1156

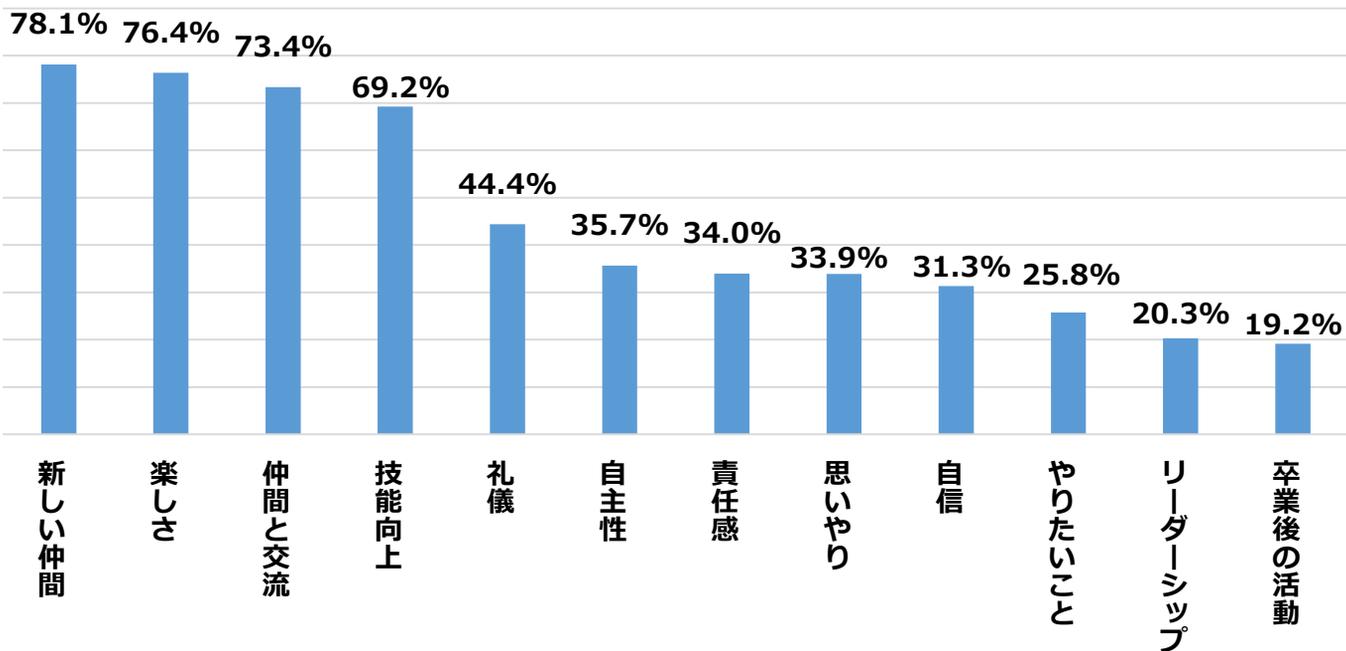
サッカー	野球	家庭	科学	PC・コンピュータ	剣道	ボランティア	演劇	英語	その他運動部
1045	697	505	433	377	340	293	241	223	208

合唱	水泳	ダンス	ハンドボール	ソフトボール	柔道	体操	軽音楽	ラグビー	新体操	スキー・スケート	相撲
187	165	148	96	68	60	47	35	25	12	12	8



#### 4 現在、参加している部活動を通して、どのようなことを得ましたか。

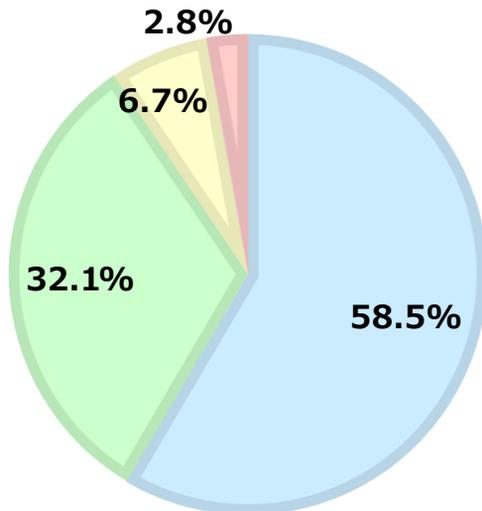
新しい仲間	楽しさ	仲間と交流	技能向上	礼儀	自主性	責任感	思いやり	自信	やりたいこと	リーダーシップ	卒業後の活動
14943	14610	14028	13242	8493	6819	6494	6485	5991	4927	3877	3665
78.1%	76.4%	73.4%	69.2%	44.4%	35.7%	34.0%	33.9%	31.3%	25.8%	20.3%	19.2%



#### 5 現在、参加している部活動は有意義だと思いますか。

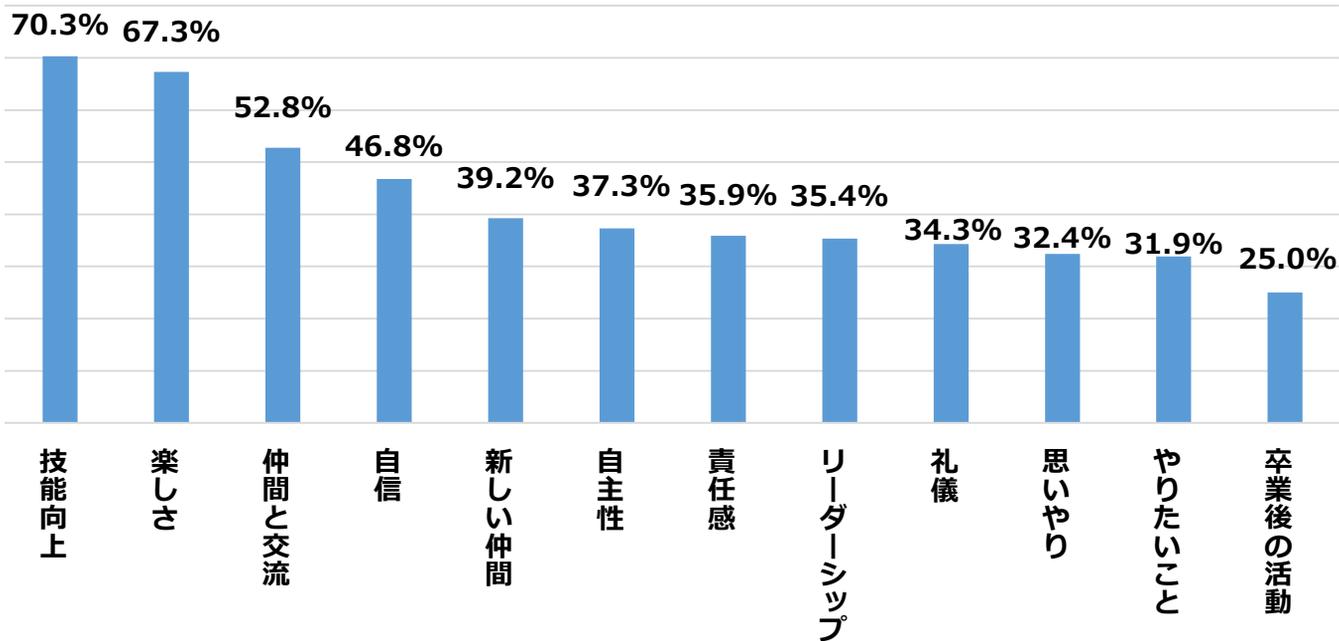
思う	やや思う	あまり思わない	思わない
11353	6222	1295	542
58.5%	32.1%	6.7%	2.8%

■ 思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない



## 6 今後、部活動を通して、どのようなことを得たいですか。

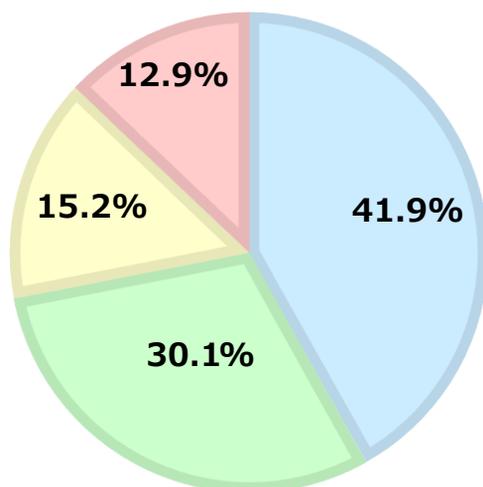
技能向上	楽しさ	仲間と交流	自信	新しい仲間	自主性	責任感	リーダーシップ	礼儀	思いやり	やりたいこと	卒業後の活動
13309	12749	9995	8857	7432	7060	6796	6697	6500	6133	6047	4743
70.3%	67.3%	52.8%	46.8%	39.2%	37.3%	35.9%	35.4%	34.3%	32.4%	31.9%	25.0%



## 7 現在、参加している部活動では、顧問の先生から、専門的な技術指導が受けられていると思いますか。

思う	やや思う	あまり思わない	思わない
8144	5850	2948	2510
41.9%	30.1%	15.2%	12.9%

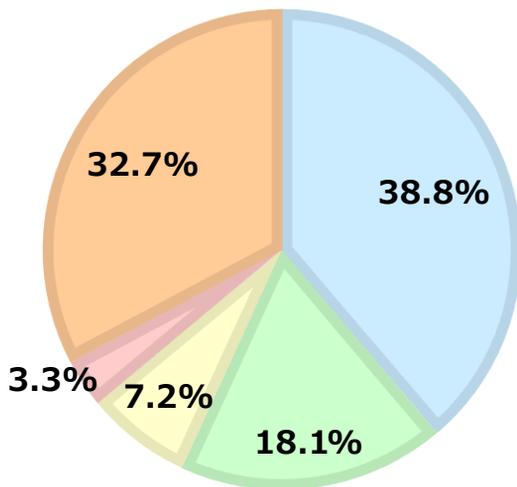
■ 思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない



8 現在、参加している部活動では、部活動指導員など外部の指導者から、専門的な技術指導が受けられていると思いますか。

思う	やや思う	あまり思わない	思わない	外部の指導者不在
7569	3524	1397	637	6385
38.8%	18.1%	7.2%	3.3%	32.7%

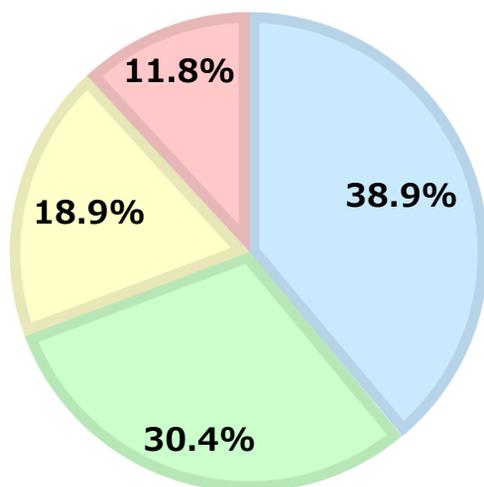
■ 思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 外部の指導者不在



9 今後、資格のある専門的な指導者から指導を受けたいと思いますか。

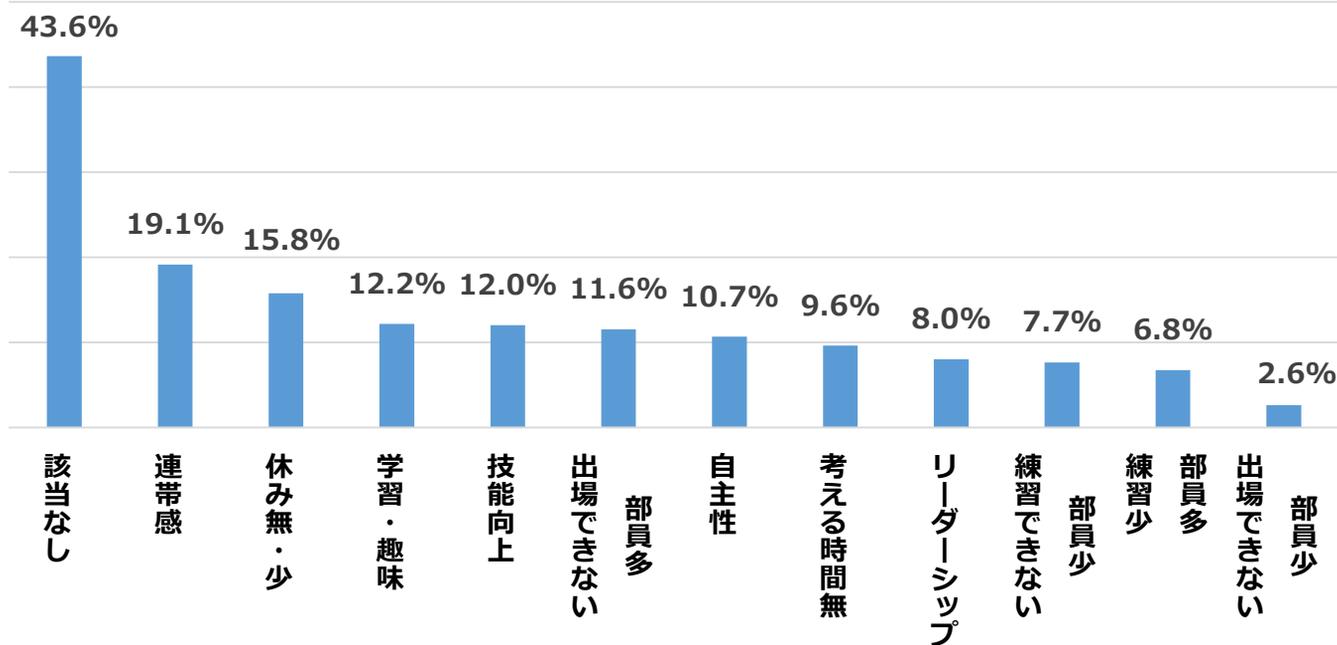
思う	やや思う	あまり思わない	思わない
7582	5921	3675	2304
38.9%	30.4%	18.9%	11.8%

■ 思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない



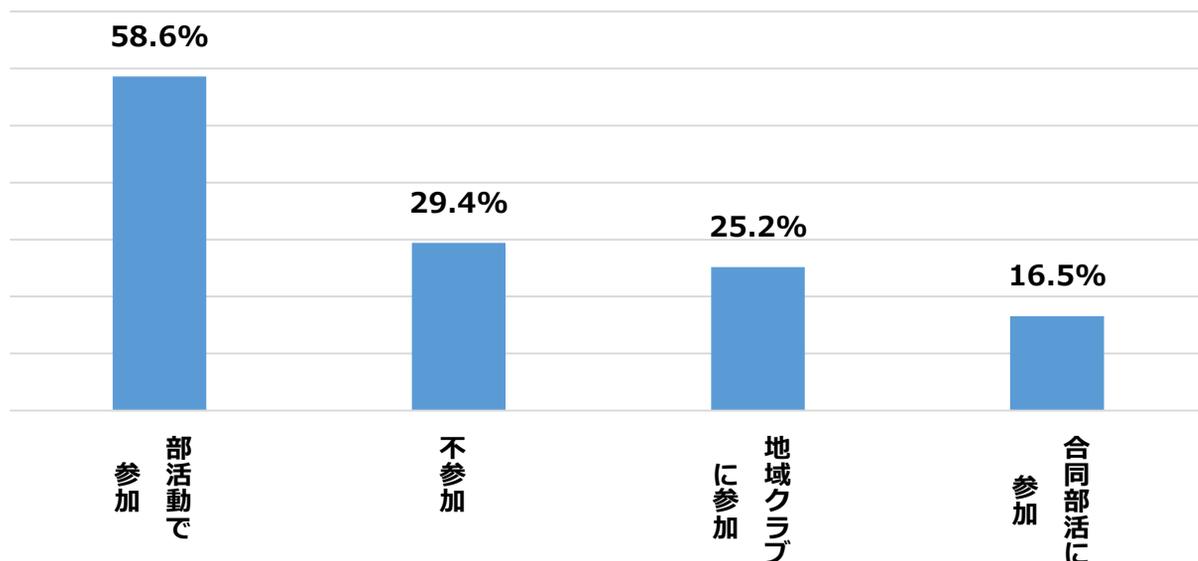
### 10 現在、参加している部活動について、困っていることはありますか。

該当なし	連帯感	休み無・少	学習・趣味	技能向上	部員多出場できない	自主性	考える時間無	リーダーシップ	部員少練習できない	部員多練習少	部員少出場できない
7685	3371	2781	2145	2119	2037	1884	1698	1416	1349	1189	462
43.6%	19.1%	15.8%	12.2%	12.0%	11.6%	10.7%	9.6%	8.0%	7.7%	6.8%	2.6%



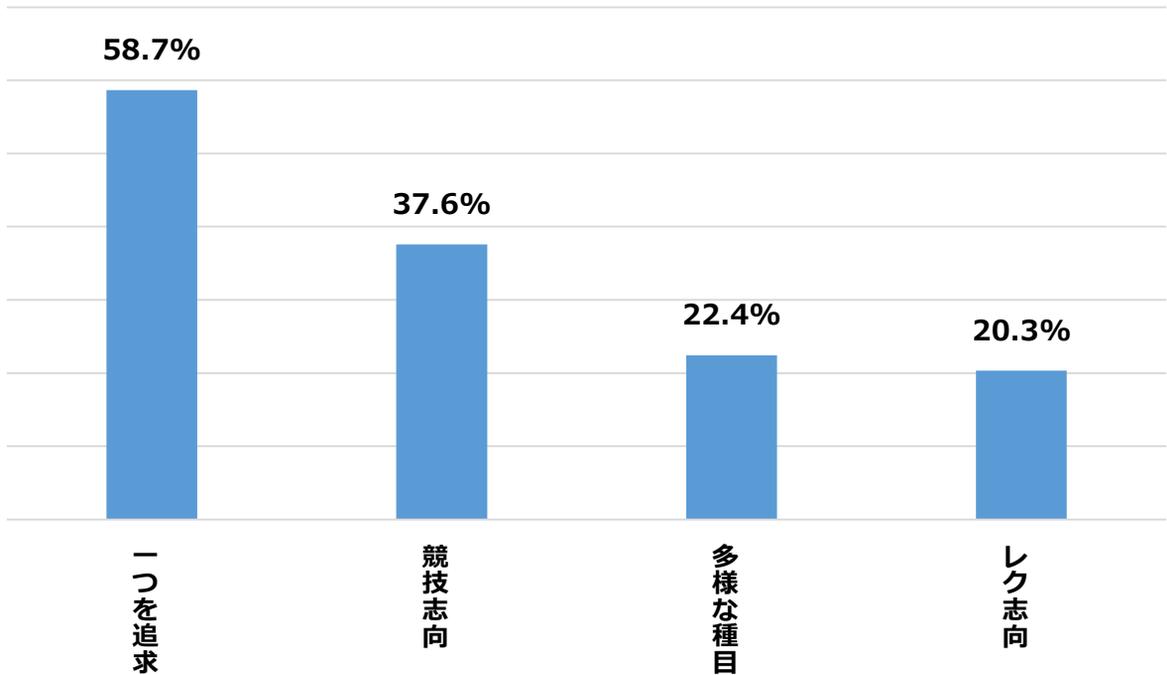
### 11 今後、生徒数が減り、学校の中で様々な部活動を継続していくことが難しくなっていくことが考えられます。自分の学校に、希望する種目や分野の部活動がない場合、どのような活動に参加したいですか。

部活動で参加	不参加	地域クラブに参加	合同部活に参加
12667	6359	5441	3575
58.6%	29.4%	25.2%	16.5%



1.2 部活動や地域の活動について、どのような活動に参加したいと思いますか。

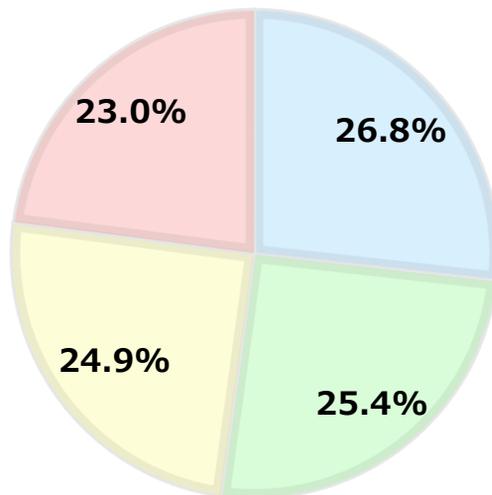
一つを追求	競技志向	多様な種目	レク志向
12678	8119	4843	4389
58.7%	37.6%	22.4%	20.3%



1.3 部活動に参加していない理由は何ですか。

希望部活動が無	地域クラブが合う	他に頑張りたいことあり	その他
1041	990	967	893
26.8%	25.4%	24.9%	23.0%

■ 希望部活動が無 ■ 地域クラブが合う ■ 他に頑張りたいことあり ■ その他



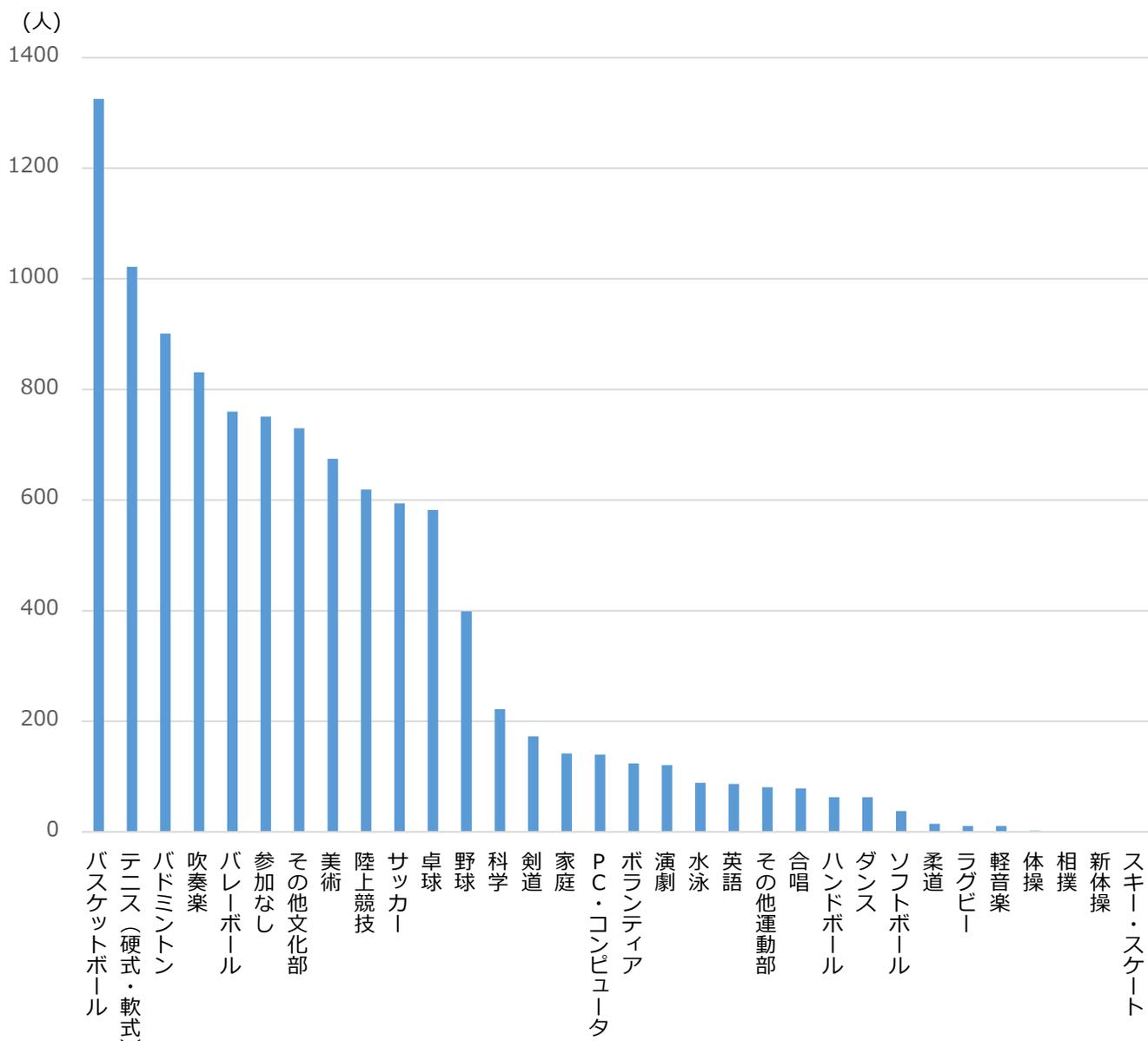
# 「未来へつなぐ 部活動改革 アンケート」集計結果【保護者】

1 回答数 10,332人

2 在籍校名 (省略)

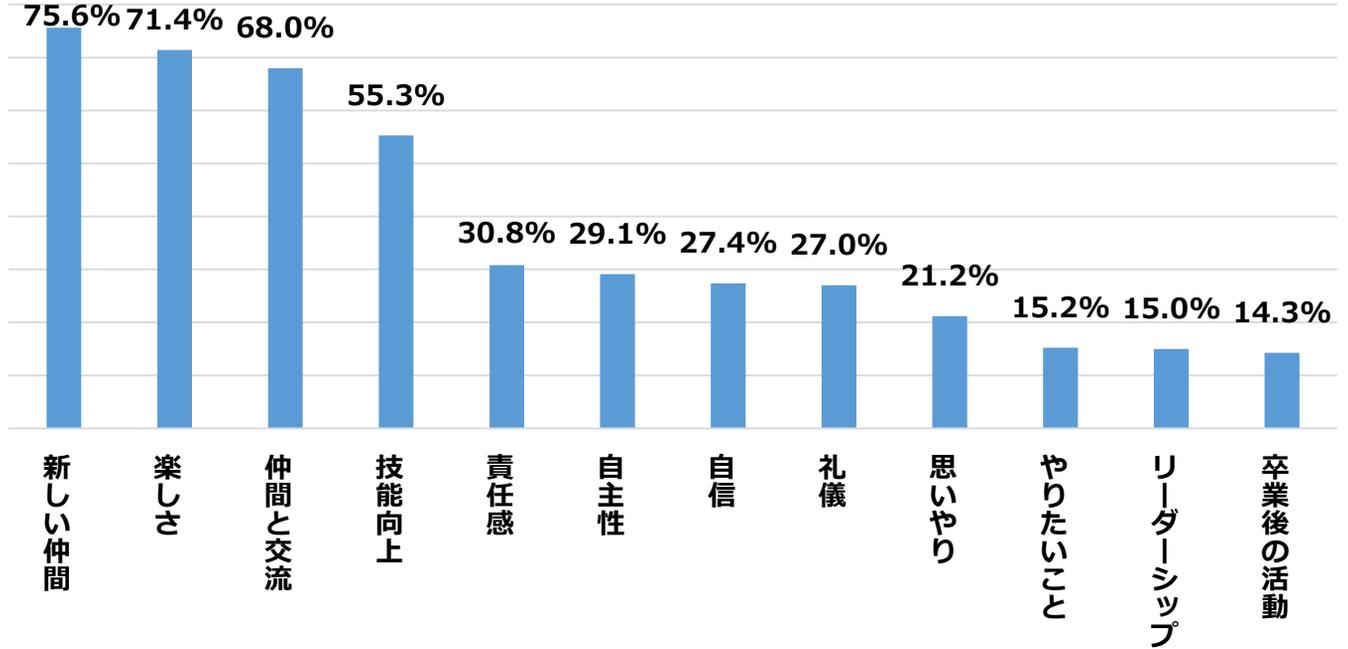
3 参加している部活動：運動系 6,740人、文化系 3,913人、参加なし 751人

バスケットボール	テニス(硬式・軟式)	バドミントン	吹奏楽	バレーボール	参加なし	その他文化部	美術	陸上競技	サッカー		
1325	1022	901	831	760	751	730	675	619	594		
卓球	野球	科学	剣道	家庭	PC・コンピュータ	ボランティア	演劇	水泳	英語		
582	399	222	173	142	140	124	121	89	87		
その他運動部	合唱	ハンドボール	ダンス	ソフトボール	柔道	ラグビー	軽音楽	体操	相撲	新体操	スキー・スケート
81	79	63	63	38	15	11	11	2	1	1	1



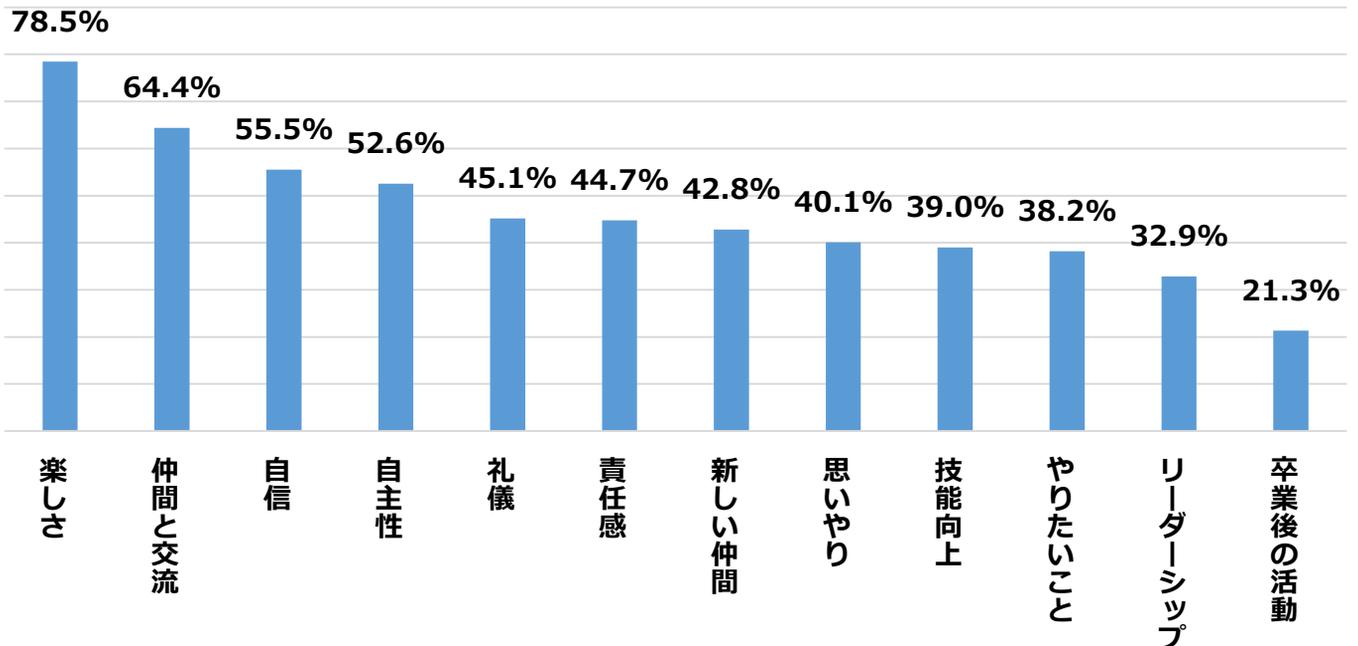
#### 4 お子様は、現在、参加している部活動を通して、どのようなことを得たと思いますか。

新しい仲間	楽しさ	仲間と交流	技能向上	責任感	自主性	自信	礼儀	思いやり	やりたいこと	リーダーシップ	卒業後の活動
6979	6593	6275	5101	2843	2688	2527	2495	1956	1404	1383	1317
75.6%	71.4%	68.0%	55.3%	30.8%	29.1%	27.4%	27.0%	21.2%	15.2%	15.0%	14.3%



#### 5 今後、お子様には、部活動を通して、どのようなことを得てほしいと思いますか。

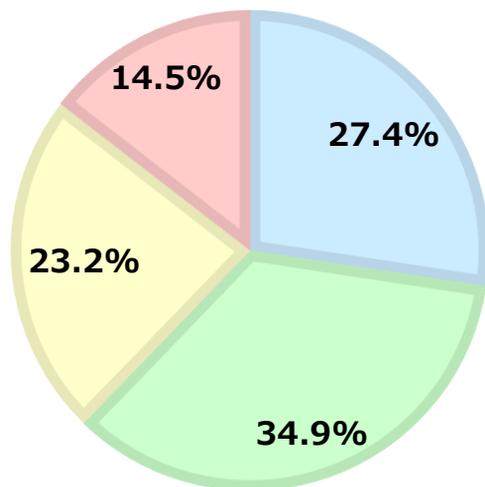
楽しさ	仲間と交流	自信	自主性	礼儀	責任感	新しい仲間	思いやり	技能向上	やりたいこと	リーダーシップ	卒業後の活動
7465	6122	5281	5000	4293	4257	4071	3815	3711	3634	3127	2028
78.5%	64.4%	55.5%	52.6%	45.1%	44.7%	42.8%	40.1%	39.0%	38.2%	32.9%	21.3%



6 現在、お子様が参加している部活動では、顧問の先生から、専門的な技術指導が受けられていると思いますか。

思う	やや思う	あまり 思わない	思わない
2605	3320	2211	1381
27.4%	34.9%	23.2%	14.5%

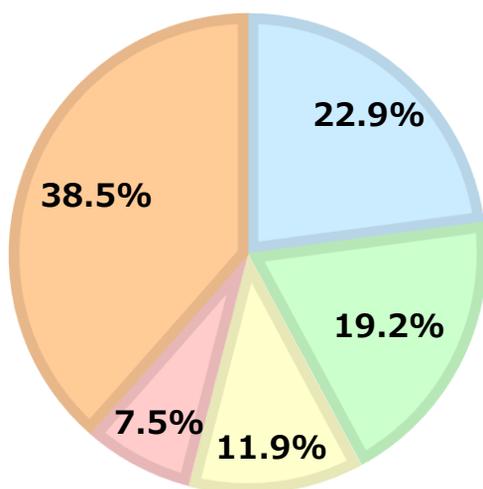
■ 思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない



7 現在、お子様が参加している部活動では、部活動指導員など外部の指導者から、専門的な技術指導が受けられていると思いますか。

思う	やや 思う	あまり 思わない	思わない	外部の 指導者不在
2186	1838	1134	712	3679
22.9%	19.2%	11.9%	7.5%	38.5%

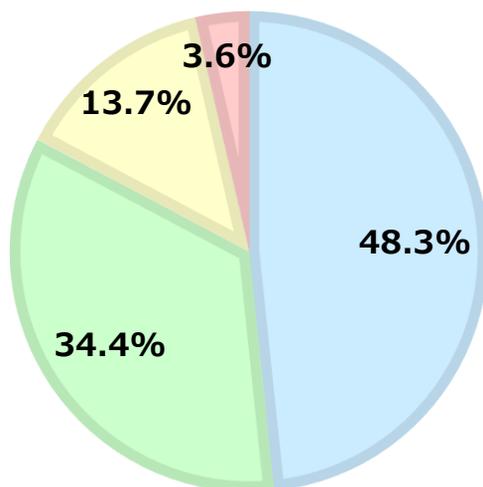
■ 思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 外部の指導者不在



8 今後、お子様に資格のある専門的な指導者から指導を受けさせたいと思いますか。

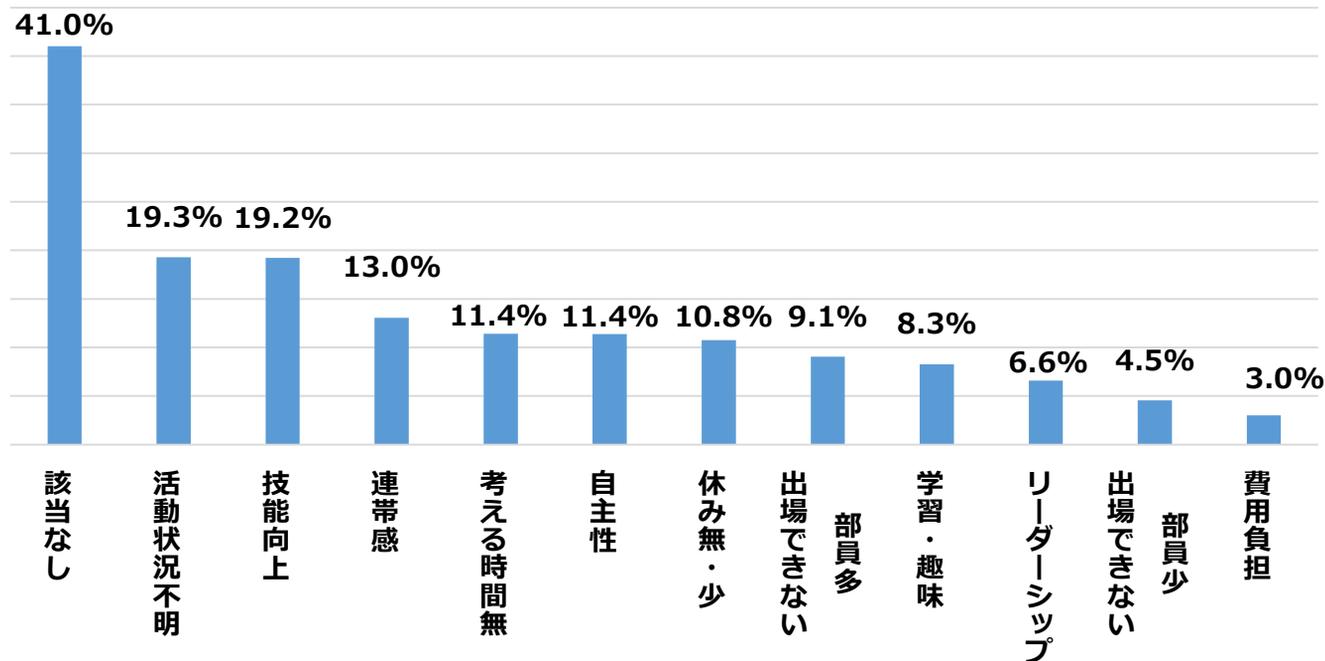
思う	やや思う	あまり 思わない	思わない
4611	3281	1306	342
48.3%	34.4%	13.7%	3.6%

■ 思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない



9 現在、お子様が参加している部活動について、困っていることはありますか。

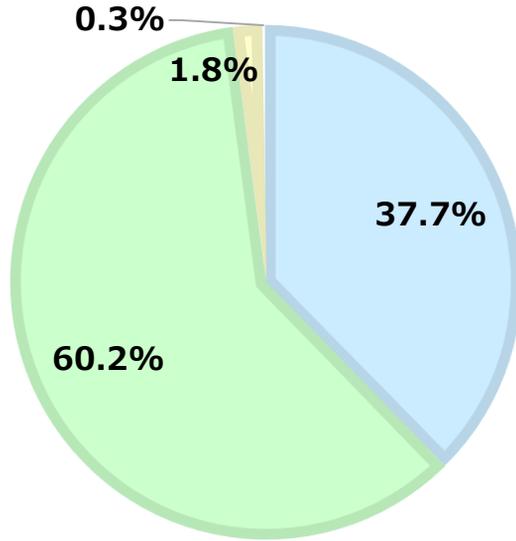
該当なし	活動状況 不明	技能向上	連帯感	考える 時間無	自主性	休み 無・少	部員多 出場でき ない	学習・ 趣味	リーダー シップ	部員少 出場でき ない	費用負担
3710	1744	1738	1180	1032	1030	973	820	748	597	411	271
41.0%	19.3%	19.2%	13.0%	11.4%	11.4%	10.8%	9.1%	8.3%	6.6%	4.5%	3.0%



10 現在、お子様が参加している部活動の部費（保護者の負担）は、年間いくらですか。

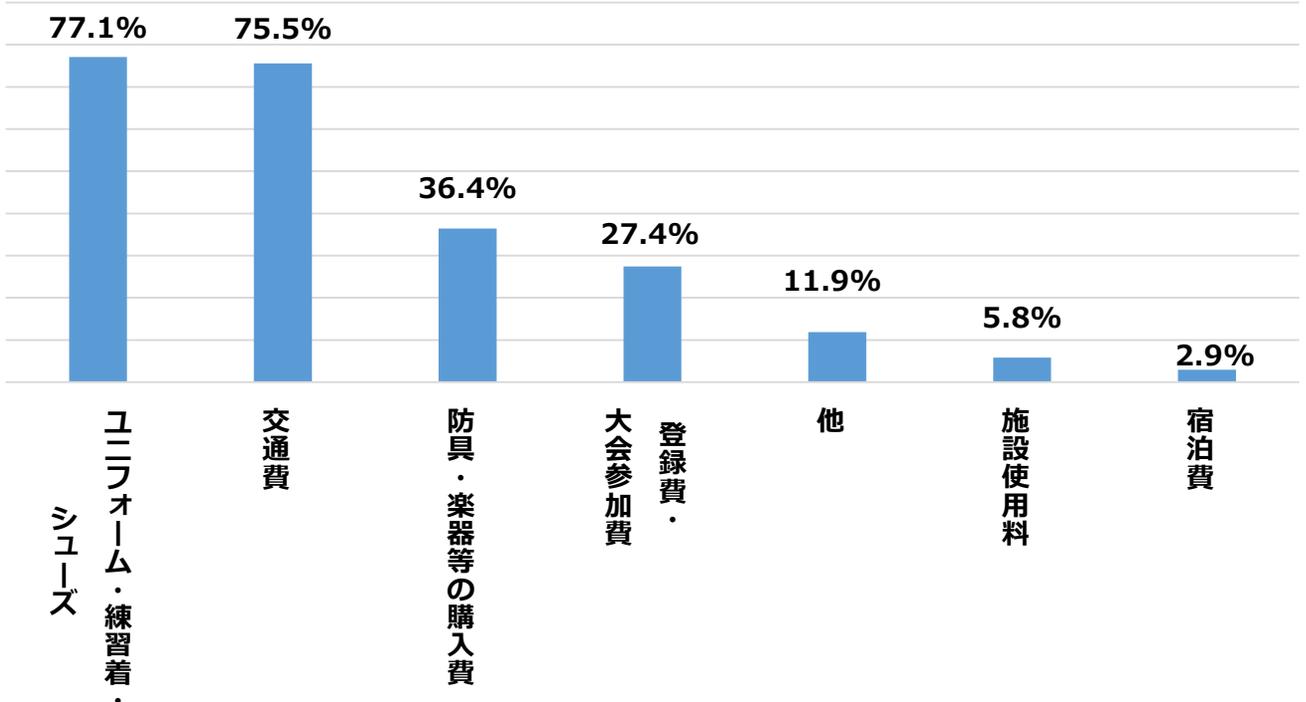
負担なし	1円～30,000円 (月1円～2,500円)	30,001円～60,000円 (月2,501円～5,000円)	60,001円～ (月5,001円～)
3595	5747	174	26
37.7%	60.2%	1.8%	0.3%

■ 負担なし ■ 1円～30,000円 (月1円～2,500円) ■ 30,001円～60,000円 (月2,501円～5,000円) ■ 60,001円～ (月5,001円～)



11 現在、お子様が参加している部活動では、部費以外にどのような費用を負担していますか。

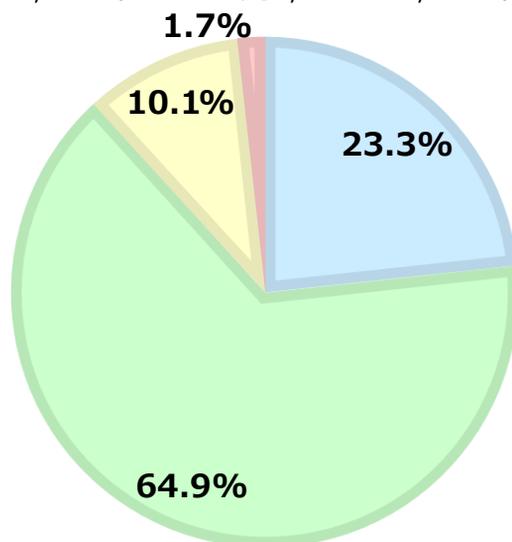
ユニフォーム・練習着・シューズ	交通費	防具・楽器等の購入費	登録費・大会参加費	他	施設使用料	宿泊費
6396	6266	3023	2275	984	483	243
77.1%	75.5%	36.4%	27.4%	11.9%	5.8%	2.9%



1.2 現在、お子様が参加している部活動では、部費以外に負担している費用は、年間いくらですか。（11の回答の総額）

0円	1円～30,000円 (月1円～2,500円)	30,001円～60,000円 (月2,501円～5,000円)	60,001円～ (月5,001円～)
2206	6145	952	162
23.3%	64.9%	10.1%	1.7%

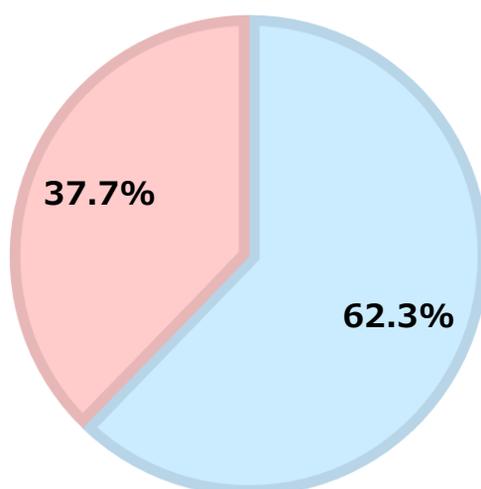
■ 0円   
 ■ 1円～30,000円  
 (月1円～2,500円)   
 ■ 30,001円～60,000円  
 (月2,501円～5,000円)   
 ■ 60,001円～  
 (月5,001円～)



1.3 今後、生徒数が減り、学校の中で部活動を継続していくことが難しくなっていくことが考えられます。国は中学校の部活動を地域に移行することを示していますが、御存知ですか。

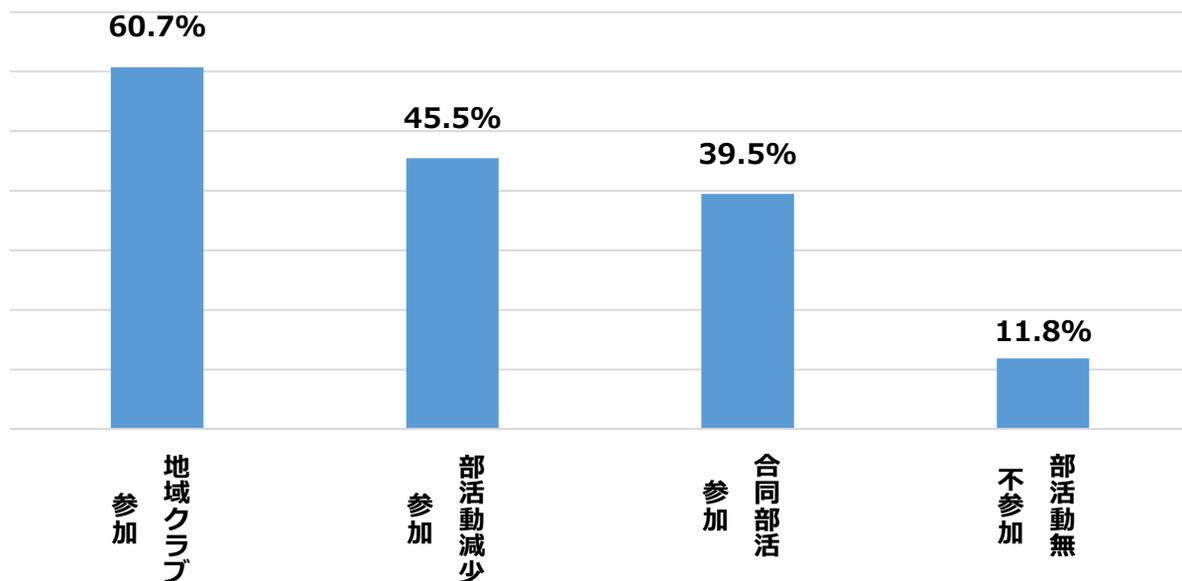
知っている	知らない
6433	3899
62.3%	37.7%

■ 知っている   
 ■ 知らない



1.4 今後、生徒数が減り、学校の中で部活動を継続していくことが難しくなっていくことが考えられます。お子様の学校に、希望する種目や分野の部活動がない場合、お子様をどのような活動に参加させたいですか。

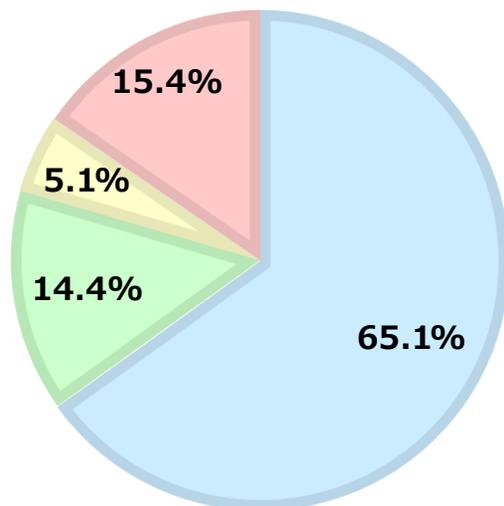
地域クラブ 参加	部活動減少 参加	合同部活 参加	部活動無 不参加
6274	4699	4078	1224
60.7%	45.5%	39.5%	11.8%



1.5 国は、中学校の部活動について、休日の部活動から地域に移行していくことを示しています。休日の部活動が地域の活動に移行し、その活動にお子様に参加する場合、新たに活動費（指導者謝金等）の負担が保護者に生じることも考えられます。お子様の休日の地域の活動への参加（月に5回程度）と、保護者が負担する活動費との関係について、どのようにお考えですか。

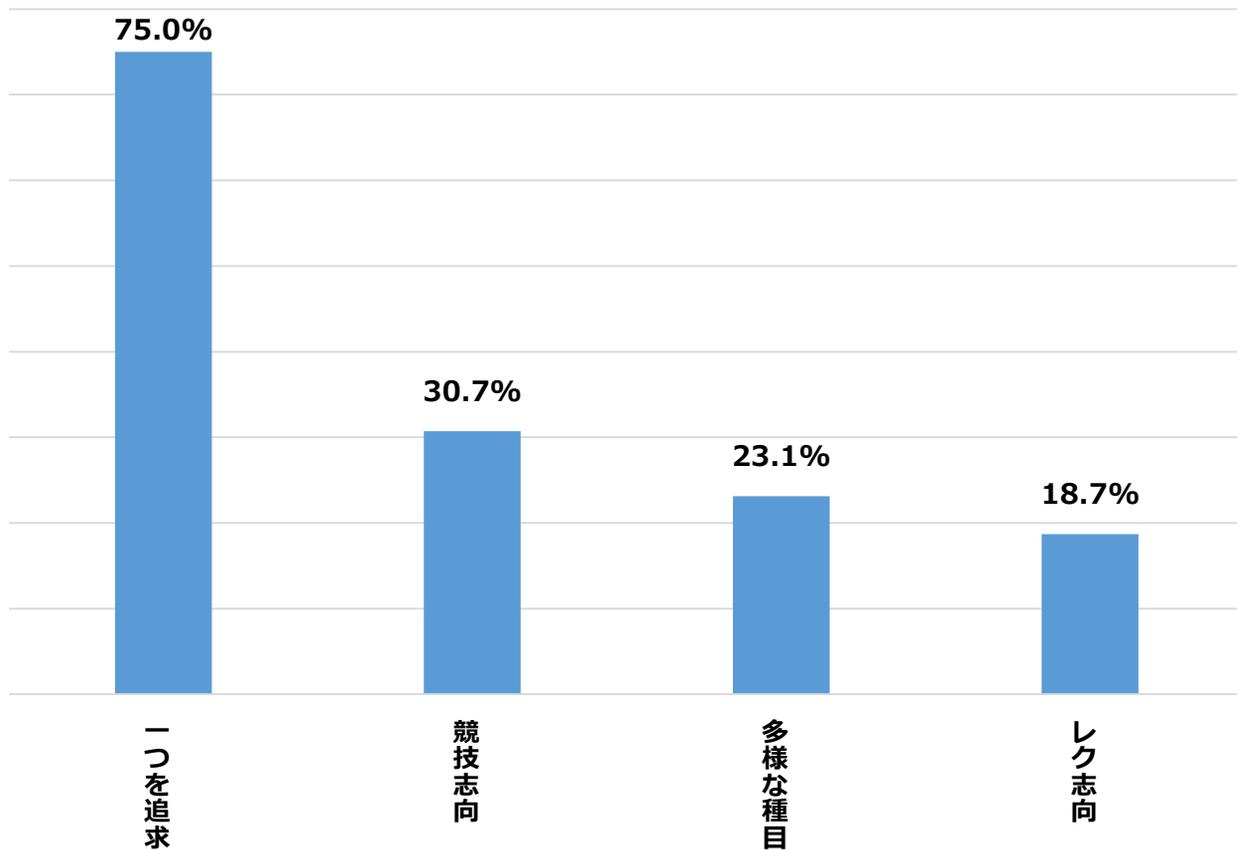
月3,000円～ 5,000円	月5,001円～ 10,000円	月10,001円～	費用負担があれば参加させない
6726	1488	523	1595
65.1%	14.4%	5.1%	15.4%

■ 月3,000円～5,000円 ■ 月5,001円～10,000円 ■ 月10,001円～ ■ 費用負担があれば参加させない



1 6 部活動や地域の活動について、お子様をどのような活動に参加させたいと思いますか。

一つを追求	競技志向	多様な種目	レク志向
7750	3172	2389	1932
75.0%	30.7%	23.1%	18.7%



# 「未来へつなぐ 部活動改革 アンケート」集計結果【教員】

1 回答数 4,170人

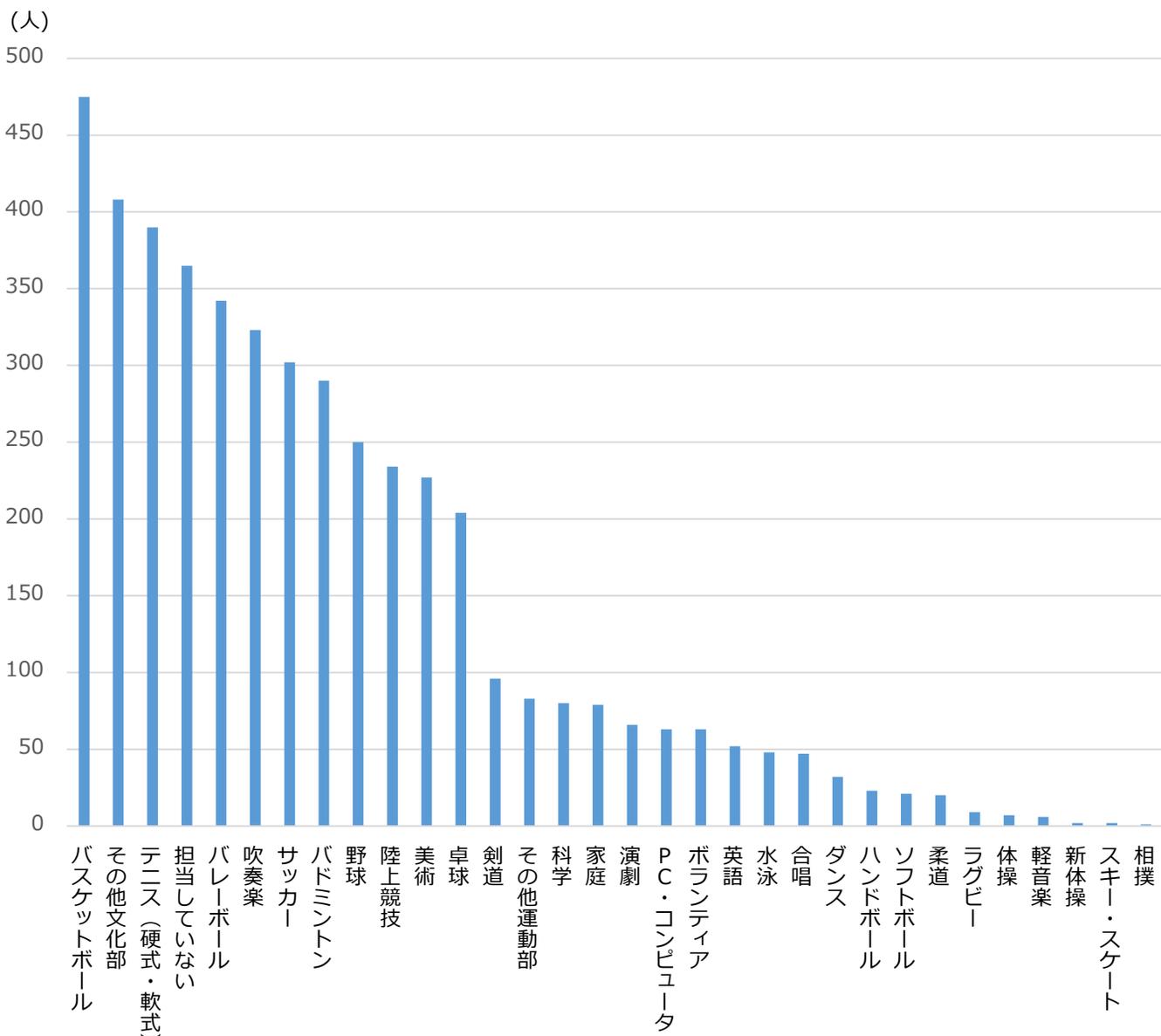
2 勤務校名 (省略)

3 担当している部活動：運動系 2,831人、文化系 1,779人、担当なし 365人

バスケットボール	その他文化部	テニス(硬式・軟式)	担当していない	バレーボール	吹奏楽	サッカー	バドミントン	野球	陸上競技
475	408	390	365	342	323	302	290	250	234

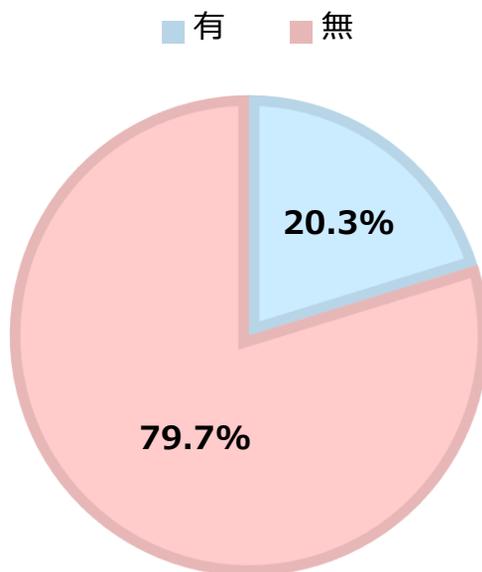
美術	卓球	剣道	その他運動部	科学	家庭	演劇	PC・コンピュータ	ボランティア	英語
227	204	96	83	80	79	66	63	63	52

水泳	合唱	ダンス	ハンドボール	ソフトボール	柔道	ラグビー	体操	軽音楽	新体操	スキー・スケート	相撲
48	47	32	23	21	20	9	7	6	2	2	1



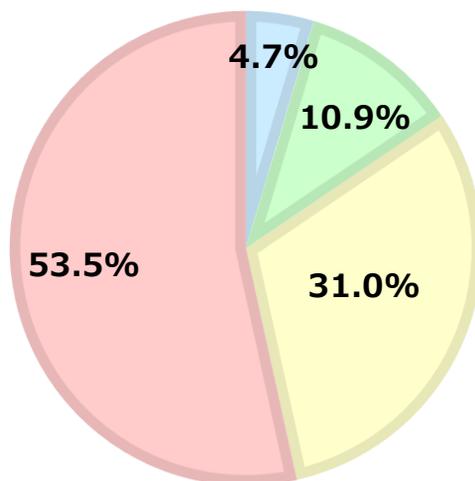
#### 4 担当している部活動の資格の有無

有	無
766	3016
20.3%	79.7%



#### 5 担当している部活動に部活動指導員や外部指導者は配置されていますか。

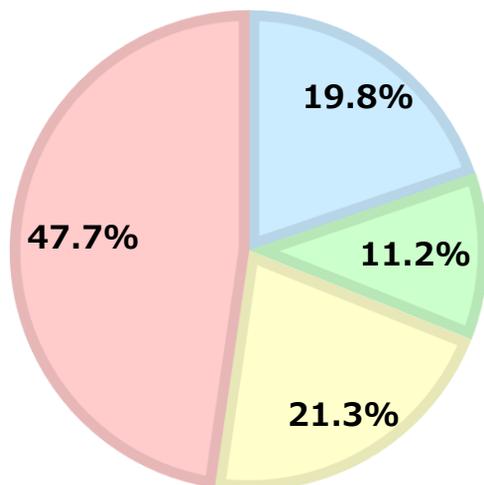
部活動指導員 外部指導者	部活動指導員	外部指導者	配置なし
178	416	1183	2041
4.7%	10.9%	31.0%	53.5%



6 (配置されている場合) あなたが休日の部活動に携わっている日数は、月当たり何日ですか。

0日 /月	1日 /月	2、3日 /月	4日以上 /月
380	216	409	916
19.8%	11.2%	21.3%	47.7%

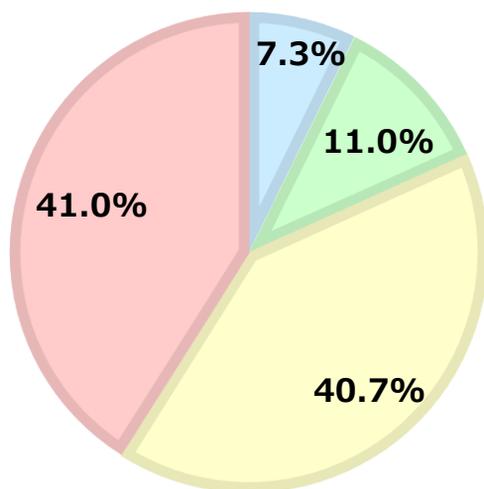
■ 0日/月 ■ 1日/月 ■ 2、3日/月 ■ 4日以上/月



7 (配置されている場合) 部活動指導員や外部指導者が配置されたことにより、あなたが部活動に携わっている時間は、配置されていない場合に比べて、週当たり何時間減っていると思いますか。

10時間以上 /週	5時間～9時間59分 /週	1分～4時間59分 /週	0時間 /週
133	202	746	752
7.3%	11.0%	40.7%	41.0%

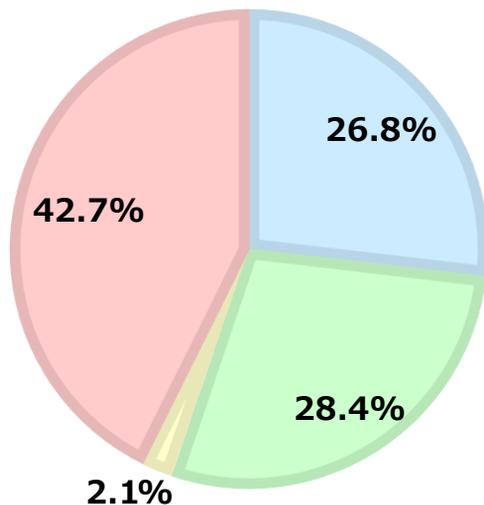
■ 10時間以上/週 ■ 5時間～9時間59分/週 ■ 1分～4時間59分/週 ■ 0時間/週



## 8 自分の専門の部活動について、指導や運営に携わりたいですか。

平日・休日	平日のみ	休日のみ	携わりたくない
1016	1075	80	1615
26.8%	28.4%	2.1%	42.7%

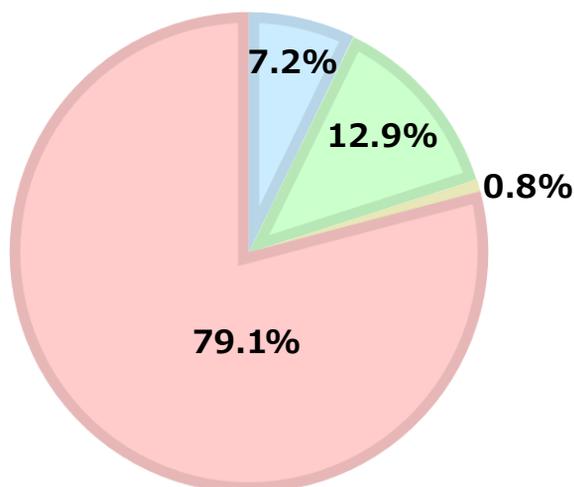
■ 平日・休日 ■ 平日のみ ■ 休日のみ ■ 携わりたくない



## 9 自分の専門ではない部活動について、指導や運営に携わりたいですか。

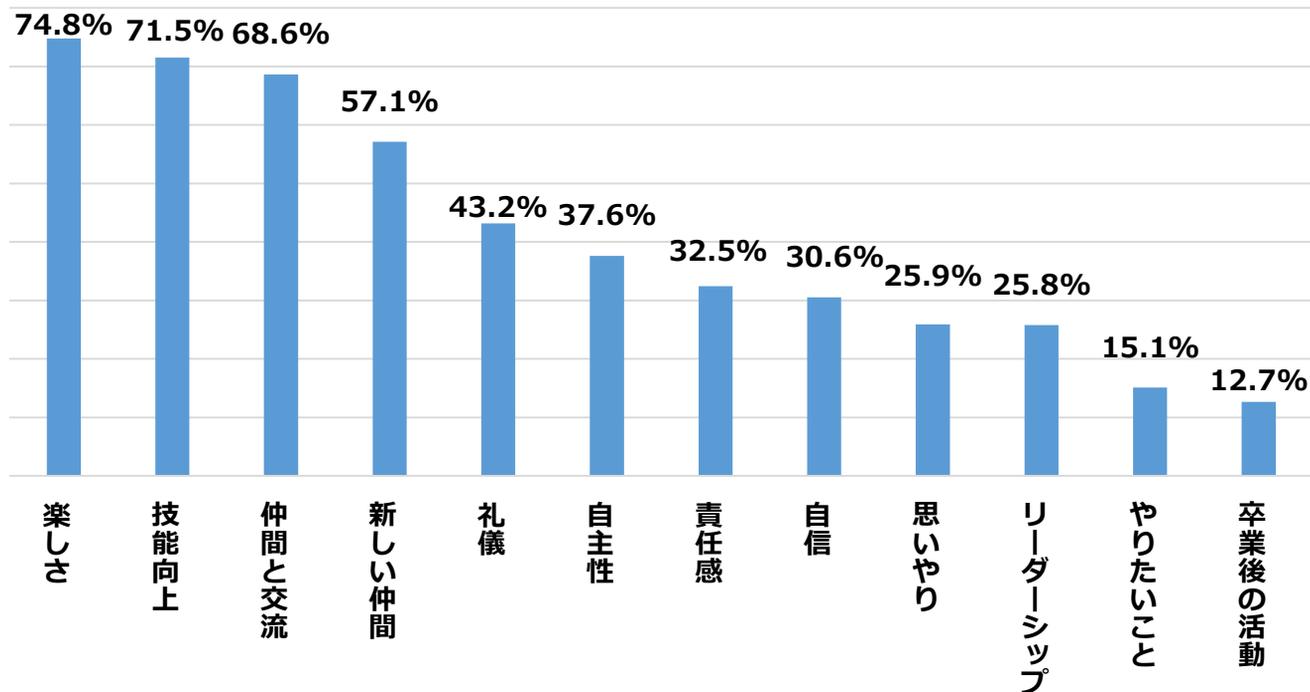
平日・休日	平日のみ	休日のみ	携わりたくない
274	489	32	3007
7.2%	12.9%	0.8%	79.1%

■ 平日・休日 ■ 平日のみ ■ 休日のみ ■ 携わりたくない



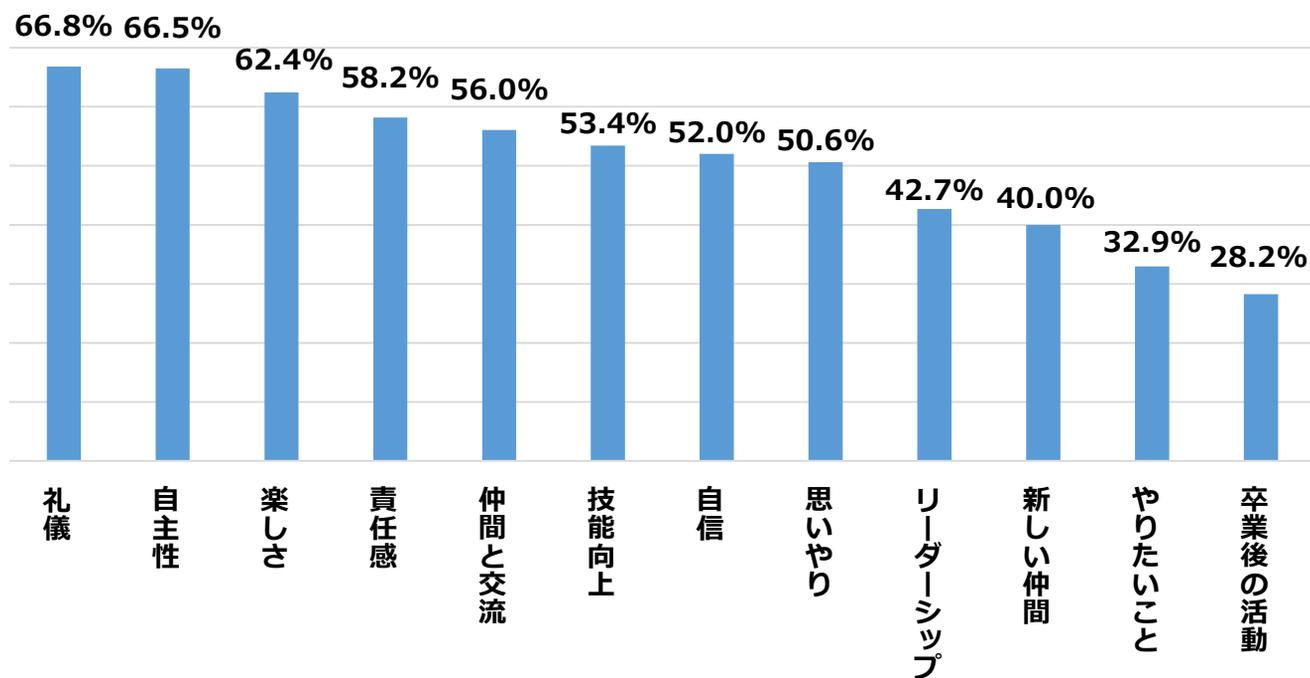
1.0 現在、指導している部活動において、第2学年の生徒は、これまでの活動を通して、どのようなことを得たと思いますか。

楽しさ	技能向上	仲間と交流	新しい仲間	礼儀	自主性	責任感	自信	思いやり	リーダーシップ	やりたいこと	卒業後の活動
2665	2458	2445	2036	1538	1341	1157	1089	923	919	539	452
74.8%	71.5%	68.6%	57.1%	43.2%	37.6%	32.5%	30.6%	25.9%	25.8%	15.1%	12.7%



1.1 今後、部活動を通して、生徒にどのようなことを得させたいですか。

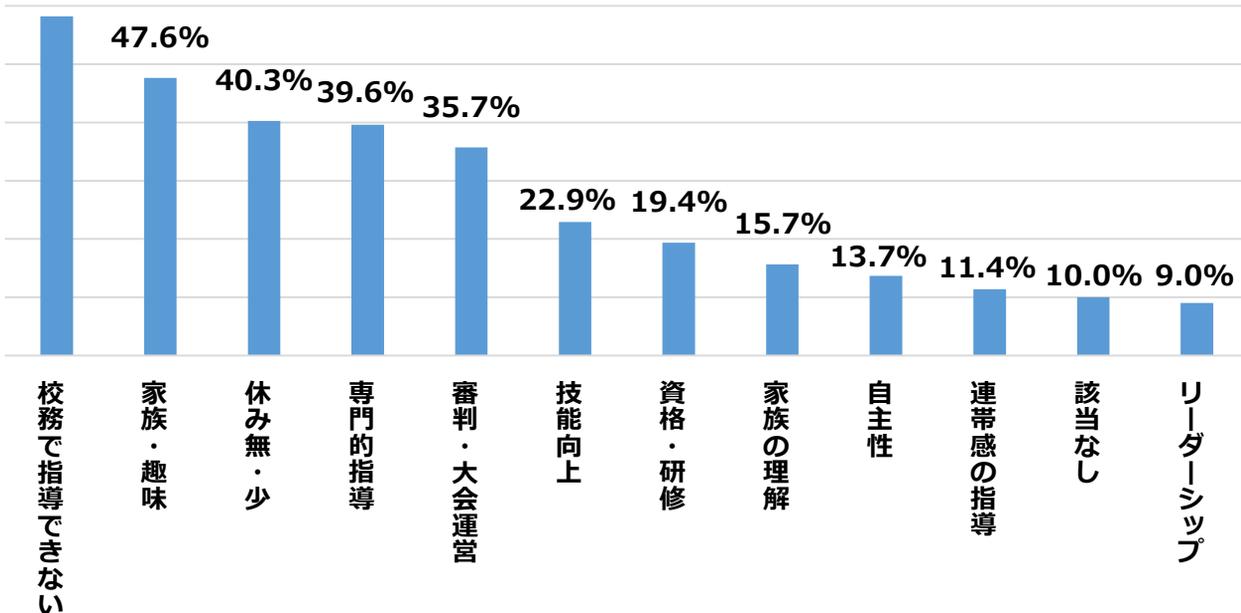
礼儀	自主性	楽しさ	責任感	仲間と交流	技能向上	自信	思いやり	リーダーシップ	新しい仲間	やりたいこと	卒業後の活動
2365	2353	2209	2059	1983	1891	1841	1790	1510	1414	1165	999
66.8%	66.5%	62.4%	58.2%	56.0%	53.4%	52.0%	50.6%	42.7%	40.0%	32.9%	28.2%



## 1.2 現在、指導している部活動について、困っていることは何ですか。

校務で指導できない	家族・趣味	休み無・少	専門的指導	審判・大会運営	技能向上	資格・研修	家族の理解	自主性	連帯感の指導	該当なし	リーダーシップ
2175	1779	1504	1479	1334	857	724	585	510	424	373	337
58.2%	47.6%	40.3%	39.6%	35.7%	22.9%	19.4%	15.7%	13.7%	11.4%	10.0%	9.0%

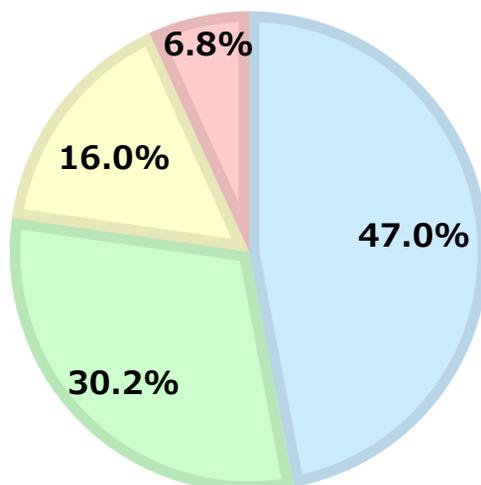
58.2%



## 1.3 現在、部活動の指導や運営を負担に感じていますか。

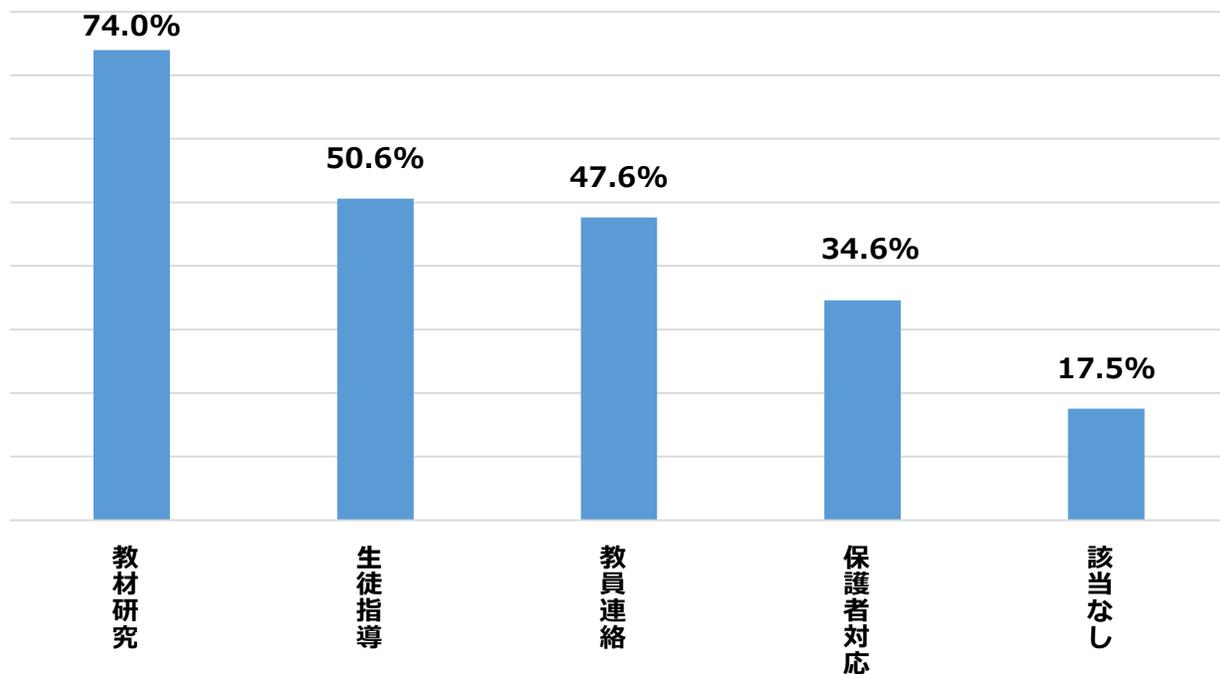
感じる	やや	あまり	感じない
1778	1144	605	256
47.0%	30.2%	16.0%	6.8%

■感じる ■やや感じる ■あまり感じない ■感じない



1.4 現在、部活動の指導や運営によって、どのような業務に支障が生じていますか。

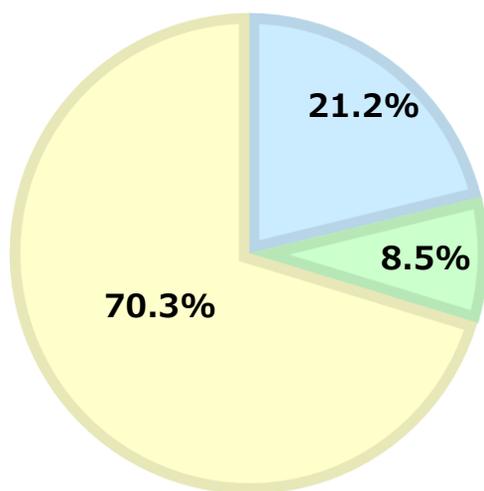
教材研究	生徒指導	教員連絡	保護者対応	該当なし
2804	1917	1806	1312	665
74.0%	50.6%	47.6%	34.6%	17.5%



1.5 今後、生徒数が減り、学校内の部活動の設置数や部員数が減少していくことが考えられます。そのような場合、部活動は、どのような実施形態が望ましいと思いますか。

精選して部活動	合同部活動	地域クラブ
884	354	2932
21.2%	8.5%	70.3%

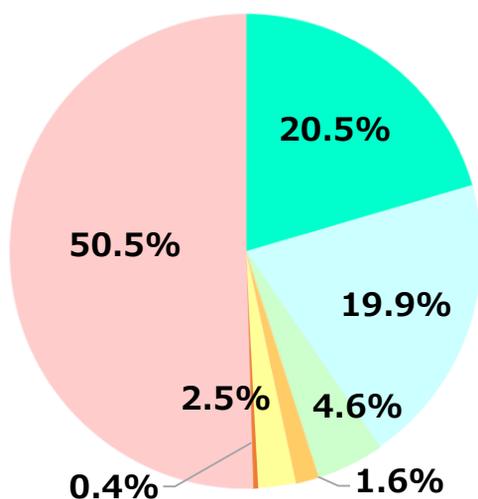
■ 精選して部活動 ■ 合同部活動 ■ 地域クラブ



1.6 部活動が地域に移行した際に、自分の専門の活動である場合、地域クラブの指導や運営に携わりたいですか。

有償：平日休日	有償：平日のみ	有償：休日のみ	無償：平日休日	無償：平日のみ	無償：休日のみ	携わりたくない
855	830	193	67	106	15	2104
20.5%	19.9%	4.6%	1.6%	2.5%	0.4%	50.5%

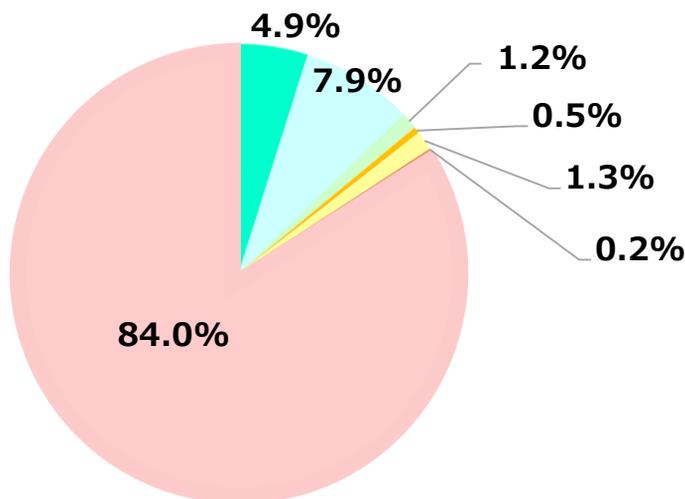
- 有償：平日休日
- 有償：平日のみ
- 有償：休日のみ
- 無償：平日休日
- 無償：平日のみ
- 無償：休日のみ
- 携わりたくない



1.7 部活動が地域に移行した際に、自分の専門の活動でない場合、地域クラブの指導や運営に携わりたいですか。

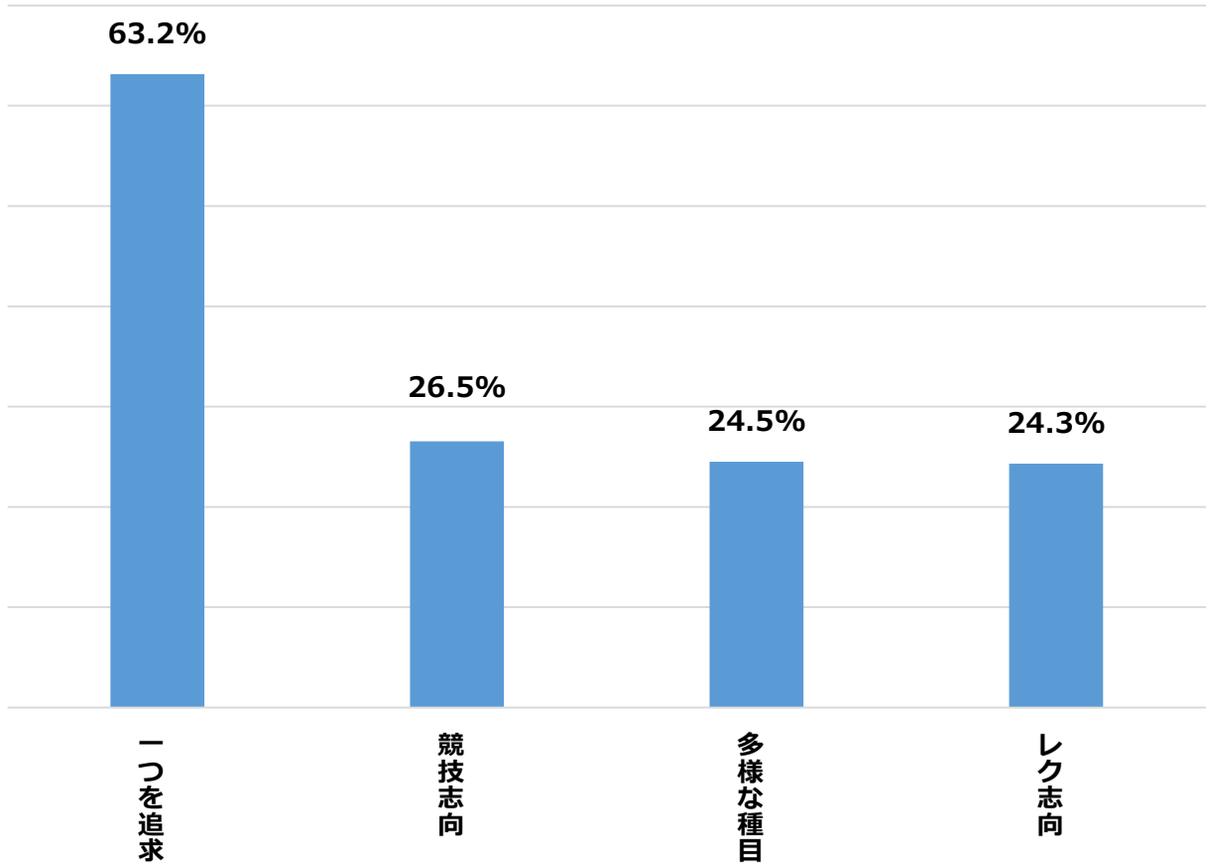
有償：平日休日	有償：平日のみ	有償：休日のみ	無償：平日休日	無償：平日のみ	無償：休日のみ	携わりたくない
204	331	49	20	56	8	3502
4.9%	7.9%	1.2%	0.5%	1.3%	0.2%	84.0%

- 有償：平日休日
- 有償：平日のみ
- 有償：休日のみ
- 無償：平日休日
- 無償：平日のみ
- 無償：休日のみ
- 携わりたくない



## 18 部活動や地域の活動について、生徒をどのような活動に参加させたいと思いますか。

一つを追求	競技志向	多様な種目	レク志向
2634	1107	1022	1014
63.2%	26.5%	24.5%	24.3%



# 資料

「未来へ つなぐ 部活動改革 アンケート」の質問と回答  
【生徒用】、【保護者用】、【教員用】

# 「未来へつなぐ 部活動改革 アンケート」の質問と回答【生徒用】

質問		複数回答	回答			
1	在籍校の所在区市町村を選択してください。都立学校在籍生徒は「都立」を選択してください。	-	地区 選択			
2	在籍校名を入力してください。	-	学校名入力			
3	現在、参加している部活動を選択してください。部活動に参加していない場合は「参加していない」を選択してください。	○	種目 選択	参加していない → 11へ		
4	現在、参加している部活動を通して、どのようなことを得ましたか。	○	技能が向上した	活動を楽しめた	新しい仲間ができた	仲間と交流を深められた
			責任感が身に付いた	自主性が身に付いた	思いやりが身に付いた	リーダーシップが身に付いた
			礼儀が身に付いた	自信が付いた	卒業後も続けることができる活動が見付かった	自分のやりたいことを見付かった
5	現在、参加している部活動は有意義だと思いますか。	-	思う	やや思う	あまり思わない	思わない
6	今後、部活動を通して、どのようなことを得たいですか。	○	技能を向上させたい	活動を楽しみたい	新しい仲間をつくりたい	仲間と交流を深めたい
			責任感を身に付けたい	自主性を身に付けたい	思いやりを身に付けたい	リーダーシップを身に付けたい
			礼儀を身に付けたい	自信を付けたい	卒業後も続けることができる活動を見付けたい	自分のやりたいことを見付けたい
7	現在、参加している部活動では、顧問の先生から、専門的な技術指導が受けられていると思いますか。	-	思う	やや思う	あまり思わない	思わない
8	現在、参加している部活動では、部活動指導員など外部の指導者から、専門的な技術指導が受けられていると思いますか。	-	思う	やや思う	あまり思わない	思わない
9	今後、資格のある専門的な指導者から指導を受けたいと思いますか。	-	思う	やや思う	あまり思わない	思わない
10	現在、参加している部活動について、困っていることはありますか。個人で困っていることではなく、全体で困っていることを選んでください。	○	技能が向上していない	リーダーシップが身に付いていない	自主性が身に付いていない	休みがない・少ない
			学習や趣味に使える時間がない	部員の間に関連感がない	活動目標、活動の成果や課題、課題の解決策等について、自分たちで考える時間がない・少ない	部員が多いため、試合や発表会に出場できない生徒がいる
			部員が多いため、練習の機会が少ない	部員が少ないため、効果的な練習が十分にできない	部員が少ないため、試合や発表会に出場できない	該当なし
11	今後、生徒数が減り、学校の中で様々な部活動を継続していくことが難しくなっていくことが考えられます。自分の学校に、希望する種目や分野の部活動がない場合、どのような活動に参加したいですか。	○	自分の学校にある部活動の中から選んで参加したい。	自分の学校に、希望する種目や分野の部活動がなければ、他の部活動には参加しない。	他の学校に、希望する種目や分野の部活動があり、それに参加できるのであれば、参加したい	住んでいる地域に、自分が希望する種目や分野の活動があれば、参加したい。
12	部活動や地域の活動について、どのような活動に参加したいと思いますか。	○	年間を通じて、同じ種目や分野を深めていく活動	季節ごとに異なる活動を行うなど、複数の種目や分野に取り組む活動	競技・大会でより高い記録・成績を残すことを目指す活動	競技・大会志向ではなく、レクリエーション志向で行う活動
13	部活動に参加していない理由は何ですか。	○	自分が希望する種目や分野の部活動がないため	学校の部活動よりも地域の活動（習い事等を含む）のほうが、自分のやりたいことに合っていたため	他に頑張りたいことがあるため	その他

# 「未来へつなぐ 部活動改革 アンケート」の質問と回答【保護者用】

質問	複数回答	回答			
1 お子様の在籍校の所在区市町村を選択してください。都立学校に在籍している場合は「都立」を選択してください。	-	地区 選択			
2 お子様の在籍校名を入力してください。	-	学校名入力			
3 お子様は、現在、参加している部活動を選択してください。部活動に参加していない場合は「参加していない」を選択してください。	○	種目 選択	参加していない → 13へ		
4 お子様は、現在、参加している部活動を通して、どのようなことを得たと思いますか。	○	技能が向上した	活動を楽しめた	新しい仲間ができた	仲間と交流を深められた
		責任感が身に付いた	自主性が身に付いた	思いやりが身に付いた	リーダーシップが身に付いた
		礼儀が身に付いた	自信が付いた	卒業後も続けることができる活動が見付かった	自分のやりたいことを見付かった
5 今後、お子様には、部活動を通して、どのようなことを得てほしいと思いますか。	○	技能を向上させてほしい	活動を楽しんでほしい	新しい仲間をつくってほしい	仲間と交流を深めてほしい
		責任感を身に付けてほしい	自主性を身に付けてほしい	思いやりを身に付けてほしい	リーダーシップを身に付けてほしい
		礼儀を身に付けてほしい	自信を付けてほしい	卒業後も続けることができる活動を見付けてほしい	自分のやりたいことを見付けてほしい
6 現在、お子様が参加している部活動では、顧問の先生から、専門的な技術指導が受けられていると思いますか。	-	思う	やや思う	あまり思わない	思わない
7 現在、お子様が参加している部活動では、部活動指導員など外部の指導者から、専門的な技術指導が受けられていると思いますか。	-	思う	やや思う	あまり思わない	思わない
		外部の指導者はいない			
8 今後、お子様に資格のある専門的な指導者から指導を受けさせたいと思いますか。	-	思う	やや思う	あまり思わない	思わない
9 現在、お子様が参加している部活動について、困っていることはありますか。	○	子供たちの技能が向上していない	子供たちにリーダーシップが身に付いていない	子供たちに自主性が身に付いていない	子供たちの休みがない・少ない
		子供たちが学習や趣味に使える時間がない	子供たちに連帯感がない	活動目標、活動の成果や課題、課題の解決策等について、子供たちが自分たちで考える時間がない・少ない	部員が多いため、試合や発表会に出場できない子供たちがいる
		部員が少ないため、試合や発表会に出場できない	保護者の費用負担が大きい	活動状況がよく分からない	該当なし
10 現在、お子様が参加している部活動の部費（保護者の負担）は、年間いくらですか。	-	負担していない	1円～30,000円 (月1円～2,500円)	30,001円～60,000円 (月2,501円～5,000円)	60,001円以上 (月5,001円以上)
11 現在、お子様が参加している部活動では、部費以外にどのような費用を負担していますか。	○	交通費（借上バス等を含む）	ユニフォーム・練習着・スパイク・シューズ等の購入費	ラケット・防具・楽器等の購入費	選手登録費・大会参加費
		施設使用料（道具代を含む）	宿泊費	その他	
12 現在、お子様が参加している部活動では、部費以外に負担している費用は、年間いくらですか。（11の回答の総額となります）	-	負担していない	1円～30,000円 (月1円～2,500円)	30,001円～60,000円 (月2,501円～5,000円)	60,001円以上 (月5,001円以上)
13 今後、生徒数が減り、学校の中で部活動を継続していくことが難しくなっていくと考えられます。国は中学校の部活動を地域に移行することを示していますが、御存知ですか。	-	知っている	知らない		
14 今後、生徒数が減り、学校の中で部活動を継続していくことが難しくなっていくと考えられます。お子様の学校に、希望する種目や分野の部活動がない場合、お子様をどのような活動に参加させたいですか。	○	学校にある部活動の中から選んで、参加させたい。	学校に希望する種目や分野の部活動がなければ、他の部活動には参加させない。	他の学校に希望する種目や分野の部活動があり、それに参加できるのであれば、参加させたい。	住んでいる地域に希望する種目や分野の活動があれば、参加させたい。
15 国は、中学校の部活動について、休日の部活動から地域に移行していくことを示しています。休日の部活動が地域の活動に移行し、その活動にお子様に参加する場合、新たに活動費（指導者謝金等）の負担が保護者に生じることも考えられます。お子様の休日の地域の活動への参加（月に5回程度）と、保護者が負担する活動費との関係について、どのようにお考えですか。	-	月3,000円～5,000円であれば参加させる。	月5,001円～10,000円であれば参加させる。	月10,001円以上でも参加させる。	保護者の費用負担が生じるのであれば、参加させない
16 部活動や地域の活動について、お子様をどのような活動に参加させたいと思いますか。	○	年間を通じて、同じ種目や分野を深めていく活動	季節ごとに異なる活動を行うなど、複数の種目や分野に取り組む活動	競技・大会でより高い記録・成績を残すことを目指す活動	競技・大会志向ではなく、レクリエーション志向で行う活動

# 「未来へつなぐ 部活動改革 アンケート」の質問と回答【教員用】

質問		複数回答	回答			
1	勤務校の所在区市町村を選択してください。都立学校に勤務している場合は「都立」を選択してください。	-	地区 選択			
2	勤務校名を入力してください。	-	学校名入力			
3	現在、担当している部活動を選択してください。部活動を担当していない場合は「担当していない」を選択してください。	○	種目 選択	担当していない → 15へ		
4	担当している部活動の資格の有無	○	有	無		
5	担当している部活動に部活動指導員や外部指導者は配置されていますか。	○	部活動指導員と外部指導者を配置	部活動指導員を配置	外部指導者を配置	配置されていない → 8へ
6	(配置されている場合) あなたが休日の部活動に携わっている日数は、月当たり何日ですか。	-	0日	1日	2、3日	4日以上
7	(配置されている場合) 部活動指導員や外部指導者が配置されたことにより、あなたが部活動に携わっている時間は、配置されていない場合に比べて、週当たり何時間減っていると思いますか。	-	0時間	1分~4時間59分	5時間~9時間59分	10時間以上
8	自分の専門の部活動について、指導や運営に携わりたいですか。	-	平日・休日とも携わりたい	平日のみ携わりたい	休日のみ携わりたい	平日・休日とも携わりたくない
9	自分の専門ではない部活動について、指導や運営に携わりたいですか。	-	平日・休日とも携わりたい	平日のみ携わりたい	休日のみ携わりたい	平日・休日とも携わりたくない
10	現在、指導している部活動において、第2学年の生徒は、これまでの活動を通して、どのようなことを得たと思いますか。	○	技能が向上した	活動を楽しめた	新しい仲間ができた	仲間と交流を深められた
			責任感が身に付いた	自主性が身に付いた	思いやりが身に付いた	リーダーシップが身に付いた
			礼儀が身に付いた	自信が付いた	卒業後も続けることができる活動が見付かった	自分のやりたいことが見付かった
11	今後、部活動を通して、生徒にどのようなことを得させたいですか。	○	技能を向上させたい	活動を楽しませたい	新しい仲間をつくらせたい	仲間と交流を深めさせたい
			責任感を身に付けさせたい	自主性を身に付けさせたい	思いやりを身に付けさせたい	リーダーシップを身に付けさせたい
			礼儀を身に付けさせたい	自信を付けさせたい	卒業後も続けることができる活動を見付けさせたい	自分のやりたいことを見付けさせたい
12	現在、指導している部活動について、困っていることは何ですか。	○	技能を向上させられない	リーダーシップを身に付けさせられない	自主性を身に付けさせられない	休みがない・少ない
			家族との時間や自分の趣味・研究に費やす時間がない	専門的な技術指導ができない	連帯感が生まれるような指導ができない	審判や大会運営への参加
			資格取得や指導力向上のための研修会への参加や指導書の費用負担	他の校務が忙しくて、思うように指導できない	家族の理解を得られない	該当なし
13	現在、部活動の指導や運営を負担に感じていますか。	-	感じている	やや感じている	あまり感じていない	感じていない
14	現在、部活動の指導や運営によって、どのような業務に支障が生じていますか。	○	教材研究	生徒指導(補習や面談など)	保護者との連絡調整	教員等との連絡調整
			該当なし			
15	今後、生徒数が減り、学校内の部活動の設置数や部員数が減少していくことが考えられます。そのような場合、部活動は、どのような実施形態が望ましいと思いますか。	-	設置する部活動を精選して自校のみで実施する	複数の学校による合同部活動として実施する	学校教育の一環としてではなく、部活動を地域クラブや民間団体などにおける活動に移行する	
16	部活動が地域に移行した際に、自分の専門の活動である場合、地域クラブの指導や運営に携わりたいですか。	-	有償で、平日・休日とも携わりたい	有償で、平日のみ携わりたい	有償で、休日のみ携わりたい	
			無償で、平日・休日とも携わりたい	無償で、平日のみ携わりたい	無償で、休日のみ携わりたい	有償・無償にかかわらず、平日・休日とも携わりたくない
17	部活動が地域に移行した際に、自分の専門の活動でない場合、地域クラブの指導や運営に携わりたいですか。	-	有償で、平日・休日とも携わりたい	有償で、平日のみ携わりたい	有償で、休日のみ携わりたい	
			無償で、平日・休日とも携わりたい	無償で、平日のみ携わりたい	無償で、休日のみ携わりたい	有償・無償にかかわらず、平日・休日とも携わりたくない
18	部活動や地域の活動について、生徒をどのような活動に参加させたいと思いますか。	○	年間を通じて、同じ種目や分野を深めていく活動	季節ごとに異なる活動を行うなど、複数の種目や分野に取り組む活動	競技・大会でより高い記録・成績を残すことを目指す活動	競技・大会志向ではなく、レクリエーション志向で行う活動



改正 令和6年3月29日杉教第11821号

(趣旨)

第1条 この要綱は、杉並区における中学校部活動の在り方に関する懇談会（以下「懇談会」という。）の運営に関し、必要な事項について定めるものとする。

(目的)

第2条 懇談会は、生徒にとって魅力ある持続可能なスポーツ及び文化芸術活動の場の確保に向けた杉並区における中学校部活動（以下「部活動」という。）の在り方に関し、次に掲げる事項について、広く意見を聴くことを目的とする。

- (1) 部活動の地域との連携に関すること。
- (2) 部活動の地域への移行に関すること。
- (3) その他部活動の在り方に関すること。

(構成)

第3条 懇談会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) スポーツに関する専門的な知見を有する者
- (2) 文化芸術に関する専門的な知見を有する者
- (3) 多様な活動を行う地域団体に関する専門的な知見を有する者
- (4) 杉並区立中学校PTA協議会が推薦する者
- (5) 杉並区立小学校PTA連合協議会が推薦する者
- (6) その他教育委員会事務局学校整備・支援担当部長が必要と認める者

2 構成員の任期は、1年とし、再任されることを妨げない。ただし、補欠の構成員の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第4条 懇談会は、必要に応じて教育委員会事務局学校整備・支援担当部長が開催する。

2 懇談会の司会及び進行をする者は、教育委員会事務局学校整備・支援担当部長が懇談内容ごとに適した者を選出する。

3 教育委員会事務局学校整備・支援担当部長は、必要があると認めるときは、前条に掲げる者以外の者又は関係職員の出席を求め、意見を聴き、又は説明を求めることができる。

(会議の公開)

第5条 懇談会は、公開とする。

(庶務)

第6条 懇談会の庶務は、教育委員会事務局学校支援課において処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、懇談会の運営に関し必要な事項は、教育委員会事務局学校整備・支援担当部長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和5年8月1日から施行する。

附 則 (令和6年3月29日杉教第11821号)

この要綱は、令和6年4月1日から施行する。

**杉並区教育委員会**  
**学校部活動の在り方に関する方針（ガイドライン）**  
（令和 6 年 5 月改定）

**策定の趣旨等**

- 本方針は、済美養護学校中学部を含む杉並区立中学校（以下「中学校」という。）の学校部活動（以下「部活動」という。）を主な対象とし、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境を構築するという観点に立ち、部活動が以下の点を重視して、地域、学校、競技種目等に応じた多様な形で最適に実施されることを目指す。

- ・ 知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育む、「日本型学校教育」の意義を踏まえ、運動部活動においては、生徒がスポーツを楽しむことで運動習慣の確立等を図り、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を図るとともに、バランスのとれた心身の成長と学校生活を送ることができるようにすること。
- 文化部活動においては、生涯にわたって学び、芸術文化等の活動に親しみ、多様な表現や鑑賞の活動を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めるとともに、バランスのとれた心身の成長と学校生活を送ることができるようにすること。
- ・ 生徒の自主的・自発的な参加により行われ、学校教育の一環として教育課程との関連を図り、合理的でかつ効率的・効果的に取り組むこととし、各学校においては、生徒の自主性・自発性を尊重し、部活動への参加を義務付けたり、活動を強制したりすることがないように、留意すること。
- ・ 学校全体として、教職員の負担軽減を図る趣旨を踏まえ、部活動の指導・運営に係る体制を構築すること

- 本方針は、スポーツ庁及び文化庁の「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」や東京都教育委員会の「部活動の在り方に関する方針」を参考に策定する。杉並区教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、今後も引き続き、国や都の動向を注視するとともに、区の部活動の実施状況等を踏まえ持続可能な部活動の在り方について継続的に検討し、適宜、本方針を改定することとする。
- 教育委員会は、本方針に基づき中学校の部活動の改善状況について、定期的にフォローアップを行う。

## 1 適切な運営のための体制整備

### (1) 部活動の方針の策定等

- ア 校長は、本方針に則り毎年度「学校の部活動に係る活動方針」を策定する。なお、本方針が改定された際は、改定翌年度までに、改定後の本方針に則った「学校の部活動に係る活動方針」を策定するものとする。  
部活動顧問（以下「顧問」という。）は、年間の活動計画並びに毎月の活動計画及び活動実績を作成し、校長に提出する。
- イ 校長は、上記アの活動方針及び活動計画等を学校のホームページへの掲載等により公表する。
- ウ 教育委員会は、上記アに関し、各学校において部活動の活動方針・活動計画の策定等が効率的に行えるよう、簡素で活用しやすい様式の作成等を行う。

### (2) 指導・運営に係る体制の構築

- ア 教育委員会は、部活動指導員<sup>1</sup>、外部指導員、区が部活動の指導等を委託した外部の指導者（以下、「部活動指導員等」という）の配置等により、部活動の支援を行う。
- イ 校長は、生徒や教員の数等を踏まえ、指導内容の充実、生徒の安全の確保、教員の長時間勤務の解消等の観点から、円滑に部活動を実施するよう、上記アの部活動の支援事業を活用するとともに、適正な数の部活動を実施する。
- ウ 校長は、顧問の決定に当たっては、校務全体の効率的・効果的な実施に鑑み、教員の他の校務分掌や部活動指導員等の配置状況を勘案した上で行う等、適切な校務分掌になるよう留意するとともに、学校全体としての適切な指導・運営及び管理に係る体制の構築を図る。
- エ 校長は、毎月の活動計画及び活動実績の確認等により、各部活動の活動内容を把握し、生徒が安全に活動を行い、教員の負担が過度とならないよう、適宜、指導・是正を行う。
- オ 教育委員会は、顧問等を対象とする部活動の指導に係る知識及び実技の質の向上、並びに、学校の管理職を対象とする部活動の適切な運営に係る実効性の確保を図るための研修等の取組を行う。
- カ 教育委員会及び校長は、教員の部活動への関与について、法令に則り、業務改善及び勤務時間管理等を行う。

## 2 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組

### (1) 適切な指導の実施

ア 校長、顧問、部活動指導員等は、部活動の実施に当たっては、生徒の心身の健康管理（スポーツ障害・外傷の予防や文化部活動中の障害・外傷の予防、バランスのとれた学校生活への配慮等を含む。）、事故防止（活動場所における施設・設備の点検や活動における安全対策等）を徹底するとともに、体罰・ハラスメントを根絶する。

特に、運動部活動においては、「運動部活動での指導のガイドライン」（平成25年5月 文部科学省）に則った指導を行う。教育委員会は、学校におけるこれらの取組が徹底されるよう、学校保健安全法等も踏まえ、適宜、支援及び指導・是正を行う。

イ 運動部活動の顧問、部活動指導員等は、スポーツ医・科学の見地から、トレーニング効果を得るために休養を適切に取る必要があること、また、過度の練習がスポーツ障害・外傷のリスクを高め、必ずしも体力・運動能力の向上につながらないこと等を正しく理解する。さらに、生徒の体力の向上や、生涯を通じてスポーツに親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とコミュニケーションを十分に図るとともに、生徒が技能や記録の向上等それぞれの目標を達成できるよう、競技種目の特性等を踏まえた科学的トレーニングの積極的な導入等により、休養等を適切に取りながら、短時間で効果が得られる指導を行う。

ウ 文化部活動の顧問、部活動指導員等は、生徒のバランスのとれた健全な成長の確保の観点から休養を適切に取る必要があること、また、過度の練習が生徒の心身に負担を与え、文化部活動以外の様々な活動に参加する機会を奪うこと等を正しく理解し、分野の特性等を踏まえた合理的でかつ効率的・効果的な練習・活動の積極的な導入等により、休養等を適切に取りながら、短時間で効果が得られる指導を行う。

エ 顧問は、専門的知見を有する保健体育担当の教員や養護教諭等と連携・協力し、発達の個人差や生徒の成長期における心と身体の状態等に関する正しい知識を得た上で指導を行う。

オ 校長、顧問、部活動指導員等は、熱中症予防対策の観点から、東京都教育委員会の「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン（令和5年3月）」等を参考に熱中症について正しく理解する。

また、「熱中症予防運動指針」（平成30年7月 公益財団法人日本スポーツ協会）等を参考にするとともに、熱中症警戒アラート情報が発せられた場合は、エアコン等が設置されていない屋内外での部活動を原則として行わないようにするなど、適切に対応する。なお、部活動の実施にあたっては、活動場所の暑さ指数（WBGT）や生徒の体調等を確認するとともに、環境条件を考慮して、活動量・内容・時間・場所等を変更、水分・塩分の補給や休憩を励行するなど熱中症予防対策を徹底する。

熱中症の疑いのある症状が見られた場合には、早期に水分・塩分補給、体温の冷却、病院への搬送等適切な処置を行う。

教育委員会は、校長、顧問、部活動指導員等に対して、適時に、熱中症予防対策の徹底に関する啓発を行う。

## (2) 運動部活動用指導手引きの活用

- ア 顧問、部活動指導員等は、部活動における合理的でかつ効率的・効果的な活動のために、中央競技団体<sup>2</sup>が作成した指導手引を活用して、上記2(1)に基づく指導を行う。

## 3 適切な休養日等の設定

- ア 運動部活動における休養日及び活動時間については、成長期にある生徒が、運動、食事、休養及び睡眠のバランスがとれた生活をおくることができるよう、スポーツ医・科学の観点からのジュニア期におけるスポーツ活動時間に関する研究<sup>3</sup>も踏まえ、以下を基準とする。また、文化部活動における休養日及び活動時間についても、成長期にある生徒が、バランスのとれた生活を送ることができるよう、同様の基準とする。

### 【休養日】

- I 学期中は、週当たり2日以上 of 休養日を設ける。(平日は少なくとも1日、週休日(祝日等を含む)は少なくとも1日を休養日とし、休養日が確保できなかった場合は他の日に振り替える。)
- II 長期休業中の休養日の設定についても上記「I」に準じた扱いを行う。また、生徒が十分な休養を取ることができるとともに、部活動以外にも多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間(オフシーズン)を設ける。
- III 週休日(祝日等を含む)に中学校体育連盟の主催する大会以外の大会(各競技団体主催大会等)に参加した場合は、週休日(祝日等を含む)の休養日を平日に振替えることとし、週2日の休養日は必ず設ける。ただし、中学校体育連盟の主催する大会へ参加する場合についてはその限りでは無い。

### 【活動時間】

- I 1日の活動時間は、長くとも学期中の平日では2時間程度、週休日(祝日等を含む)及び長期休業中は3時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。

- イ 校長は、上記1(1)に掲げる「学校の部活動に係る活動方針」の策定に当たっては、上記の基準を踏まえるとともに、本方針に則り、各部活動の休養日及び活動時間等を設定し、公表する。また、各部活動の内容を把握し、適宜、指導・是正を行う等、その運用を徹底する。

- ウ 休養日及び活動時間等の設定については、地域や学校の実態を踏まえた工夫として、定期試験前後の一定期間等、各部共通、学校全体共通の部活動休養日を設けることや、週間、月間、年間単位での活動日数・時間の目安を定めること等、地域や学校の実態を踏まえて工夫する。

## 4 生徒のニーズを踏まえたスポーツ・文化芸術環境の整備

### (1) 生徒のニーズを踏まえた部活動の設置等

- ア 校長は、少子化等に伴い、単一の学校では特定の競技の部活動の実施が困難な場合等は、生徒の活動の機会が損なわれないことがないよう、学校間で調整して合同部活動（合同チーム）を組織することができる。
- イ 教育委員会及び校長は、少子化等に伴い、単一の学校では実施が困難な場合等は、複数校の生徒が一つの拠点に集い活動を実施する拠点校方式による合同部活動（拠点校方式チーム）を組織することができる。
- ウ 校長は、部活動が生徒の潜在的なスポーツニーズに必ずしも応えられていないことを踏まえ、生徒の多様なニーズに応じた活動を行うことのできる部活動を設置するよう努める。
- エ 教育委員会及び校長は、部活動は生徒の自主的・自発的な参加により行われるものであることを踏まえ、生徒の意思に反して強制的に加入させることがないようにするとともに、適宜、その活動日数や活動時間の見直しを図る。また、様々なスポーツ・文化芸術等に親しむことを重視し、生徒が希望すれば、特定の種目・部門だけでなく複数の活動を同時に経験できるよう配慮する。

### (2) 部活動の地域との連携、地域クラブ活動への移行

- ア 教育委員会及び校長は、学校や地域の実態に応じて、地域のスポーツ・文化芸術団体との連携や民間事業者の活用等により、保護者の理解と協力を得て、学校と地域が協働・融合した形での地域におけるスポーツ・文化芸術の環境整備を図る。
- イ 教育委員会及び校長は、生徒にとって魅力ある持続可能なスポーツ及び文化芸術活動の確保に向けて、「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」に基づき、部活動の地域クラブ活動への移行を視野に入れた取組を着実に実施する。

## 5 学校単位で参加する大会等の見直し

- ア 教育委員会及び杉並区中学校体育連盟は、部活動が参加する大会・試合の全体像を把握し、週末等に開催される様々な大会・試合に参加することが、生徒や顧問の過度な負担とならないよう、大会等の統廃合等を主催者に要請するとともに、各学校の部活動が参加する大会数の上限の目安等を定める。
- イ 校長は、上記アで定められた目安等を踏まえ、生徒の教育上の意義や、生徒や顧問の負担が過度とならないことを考慮して、参加する大会等を精査する。

---

～注釈～

- 1 部活動指導員：学校教育法施行規則第 78 条の2に基づき、「中学校におけるスポーツ、文化、科学等に関する教育活動（学校の教育課程として行われるものを除く。）に係る技術的な指導に従事する」学校の職員（義務教育学校後期課程、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の中学部及び高等部については当該規定を準用）。学校の教育計画に基づき、校長の監督を受け、部活動の実技指導、大会・練習試合等の引率等を行う。校長は、部活動指導員に部活動の顧問を命じることができる。
- 2 中央競技団体：スポーツ競技の国内統括団体。
- 3 ジュニア期におけるスポーツ活動時間に関する研究：「スポーツ医・科学の観点からのジュニア期におけるスポーツ活動時間について」（平成 29 年 12 月 公益財団法人日本体育協会）において、研究等が競技レベルや活動場所を限定しているものではないことを踏まえたうえで、「休養日を少なくとも 1 週間に 1～2 回設けること、さらに、週当たりの活動時間における上限は、16 時間未満とすることが望ましい」ことが示されている。